

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 国語科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 ・「正しく書く」「正しく読む」「伝わる声で話す」「目を見て聞く」という基礎的、基本的な力を確実に身に付けさせることを1年生国語科の目標に据えて指導している。 「正しく書く」：達成度7割 課題…字形が整わない、鏡文字、筆順が正しくない。 「正しく読む」：達成度7割 課題…平仮名が読めない、単語で読めない、文のまとまりで読めない。 「伝わる声で話す」：達成度6割 課題…声が小さい、堂々と話せない、目を見合って話せない。 「目を見て聞く」：達成度7割 課題…目が合わない、手遊びをする、話し出す。	
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 ・記載なし (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等 【基礎基本が必要な児童への手立て】 ・適宜、鉛筆の持ち方、姿勢、書き順、話し方、聞き方、言葉の使い方等、日々指導して習慣化させる。 ・ひらがなカード、視写、音読・暗唱、読み聞かせの学習機会を設け、文字や言葉、お話に興味をもたせ、語彙を増やしていく。 ・毎日の家庭学習に音読や暗唱を取り入れて、言葉や文のまとまりとして捉え、リズムよく読めるように、単語を○で囲ったり、線を引いたり、手をたたいたりして言葉として読める力を付ける。 ・ペア学習を多く設け、一緒に教科書を指で押さえながら読んだり、伝え合ったりする中で語彙を増やし、話したり聞いたりする練習を繰り返す。 ・いろいろな文の型を提示し、視写などの学習を多く設けて、文章や感想の書き方に慣れさせる。 【活用が必要な児童への手立て】 ・読書活動を設け、一人読みができる習慣を付ける。語句のまとまりや関係について興味をもたせ、身近なこと以外にも生活の中で活用できる語彙を増やしていく。 ・毎日の家庭学習に音読や百人一首の暗唱を通して、文や句のまとまりを捉え、正しい口形、発声、間の取り方やリズムを身に付けさせる。 ・グループ学習、全体での発表の場を多く設け、正しい言語を使って表現する力や聞く力を育む。 ・日記や学習の振り返り等で文章を書く機会を設け、自分の思いや考えを書いて表現する力を身に付ける。	
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 ＜方策＞ ①音読・暗唱プリント（1学期）、百人一首暗唱プリント（2・3学期）を毎日の宿題として実施する。 ②朝学習の時間やスキルタイムを使い、視写やひらがな・カタカナの定着プリントに取り組む。 ③一言日記～100文字日記（3学期以降）に取り組む。 ④ペアで1冊の教科書を指で押さえながら音読したり、線を引かせたりする。	＜検証方法＞ ①プリントの進捗や達成状況を管理し、スラスラと音読・暗唱できることを目指す。 ②③プリントや日記の進捗や達成状況を管理し、「とめ」「はね」「はらい」と字形、句読点などが正しく書けることを目指す。 ④音読できない、何をするのか分からない、話を聞かない児童もペアにすることで、確実に授業や作業に参加して理解を上げられるようにすることを目指す。
4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】 ＜成果＞ ・ ・ ＜課題＞ ・ ・	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】 ・ ・
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】 ・	

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和 7 年度第 1 学年 算数科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 ・ 計算（たし算、ひき算）の正確さ、速さに課題がある。 ・ 文章問題の読み取りや立式に課題がある。 ・ 安易なミスが見られる。	
2. 課題改善に向けた取組状況 （1）令和 5 年度授業改善推進プラン記載内容 ・ 記載なし （2）今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等 【基礎基本が必要な児童への手立て】 ・ 百玉そろばんや算数ブロックによる具体的操作を取り入れ、数の合成・分解、5 や 10 の繰り上がり計算を視覚的に取り入れ、数の感覚を養う。 ・ 文章問題の中で、「わかっている数」を青、「聞かれていること」を赤で丸を囲み、問題文を整理して、立式や答え方に結び付けさせる。 ・ 文章問題の中で「ぜんぶで」「あわせて」、「のこりは」「ちがいは」など、計算のキーワードになる言葉に着目させて立式に結び付けさせる。 ・ 問題を解いたらやり直し団子に色を塗る作業を取り入れ、見直す作業を定着させる。 【活用が必要な児童への手立て】 ・ 問題文を絵や図、ブロックなどで表し、問題場面を具体的にイメージして思考の過程を表現できる力を付ける。	
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 ＜方策＞ ①授業開始時に百玉そろばんを使って、数の感覚を身に付けさせる。 ②「たしざんカード」、「ひきざんカード」、計算プリント、百ます計算を使って計算力の習熟を図る。 ③具体物、半具体物、ICT 教材などを使って、問題文のイメージを捉えやすくする。 ＜検証方法＞ ❶百玉そろばんの珠の動きに合わせて、声に出して数を唱えたり、言葉のフレーズを言わせたりして、数の合成、分解やたし算、ひき算などの理解力向上を目指す。 ❷反復して計算する機会を増やしたり、自分で計算力が上がっていることを実感させたりすることで達成感や自信を持たせ、計算力向上を目指す。 ❸問題文を具体物などで視覚的に捉えさせることで、思考力の向上を目指す。	
4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u> ＜成果＞ ・ ・ ＜課題＞ ・ ・	5. 令和 8 年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u> ・ ・
6. 令和 8 年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u> ・	

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 生活科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 ・生活経験の不足、日常生活に必要な基本的な技術が十分でない児童が見られる。 ・観察する時のポイントを捉えて、気付いたことを絵や文章で表現する力に個人差がある。	
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 ・記載なし (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等 ・気付いたことのキーワードとなる語彙を全体で確認してから、自分の言葉で具体的にまとめていくようにする。 ・観察や活動の視点を明確に示し、気付きが焦点化できるようにする。 ・観察カードを交流したり、紹介したりしながら、友達の気付きやまとめ方を参考にして、自分自身で表現できるようにする。 ・日常生活に必要な基本的な技能が身に付くように、計画的に練習する機会を設け、技能を身に付けられるようにする。	
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 ＜方策＞ ①観察時の視点を明確にすることで観察する対象を絞り、文章や絵で表現する方法の手法を示しながら指導する。 ②視覚的に捉えられるように常時掲示し、お互いで学び合える環境をつくる。 ③内容や時期に合わせて、児童の生活や体験に基づいた具体的な活動を行う。(トイレの使い方、うがいの仕方、ほうき・ちりとりの使い方、ぞうきんの絞り方、ちょうちょう結び、上履きの洗濯、はさみやのりの使い方など) ＜検証方法＞ ①観察のポイント、「くらべる、はっけんする、たとえば」などの具体的な視点を与えて観察に取り組ませる。交流できる場を設け、気付きを文章で多く表現できるようにすることを目指す。 ②お互いのカードを見たり伝えたりする中で気付きの表現の幅を広げることを目指す。 ③「手や体を使う活動」「様々な道具を使う活動」を適宜取り入れ、生活上必要な技能を身に付けさせることを目指す。	
4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u> ＜成果＞ ・ ・ ＜課題＞ ・ ・	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u> ・ ・
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u> ・	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 音楽科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・音楽技能の機械的訓練に偏ってしまわないよう、音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで、「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。
- ・音楽あそびや、わらべうたといった、未就学児段階での拍を用いた遊びの経験に差があり、拍をつかむ感覚の習得が十分でなく、丁寧な個別指導を必要とする。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・記載なし

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

【基礎基本が必要な児童への手立て】

- ・個別に表現の技能を見取る機会を適宜設け、学習内容の達成状況を把握するとともに、その場でフィードバックを行い、児童が達成度や学びの方向を理解できるようにする。
- ・リズム打ちや名前の応答遊びなど、拍を用いた常時活動を多く取り入れ、全題材を通して拍感覚の習得を目指す。
- ・拍を指導者の手拍子や打楽器奏だけでなく、指導者が大きく体を動かしたり、ときには学習者も一緒に動いたりして、拍を視覚的・運動的に理解させる。

【活用が必要な児童への手立て】

- ・表現する、思考する、表現する、の試行錯誤のサイクルを増やし、意図によって表現が変わっていくことを理解し、音楽表現を工夫する楽しさを実感させる。
- ・身体表現の活動を多く取り入れ、拍感覚や意欲の向上を図る。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①歩く、ジャンプする、手を叩くといった体の動きで拍を取り、自身の拍に歌を乗せる活動を多く取り入れる。
- ②拍感覚の習得度を把握しておき、育っている児童とそうでない児童をペアやグループにして、互いの動きをまねたりリードしたりする活動を取り入れる。

＜検証方法＞

- ① 観察記録を取り、「拍を意識して」「拍に合わせて」「拍を意識しなくても」リズムが取れているかを評価する。9割の児童が「拍に合わせて」リズムが取れることを目指す。
- ②活動中の様子や声掛けの内容とその反応、気付きの共有を記録し、拍感覚の醸成に生かされたか分析する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

・

＜課題＞

・

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

・

・

・

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

・

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 図画工作科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題 ・基礎基本的な道具や材料の使用方法を習得し、技術を身に付ける。 ・色や形、表現方法を自分で考えたり、感じたことから表現したいものを発想したりする能力を高める。 ・友達や自分の作品を見て良さや面白さを感じたり、その良さを作品にいかしたりする力を高める。									
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 ・基本的な材料や道具などの使い方を掲示や ICT を活用して確認するとともに様々な学習場面で何でも活用できるようにする。 ・表したいものを見つけるための様々なアプローチを経験できるようにする。 (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等 【基礎基本が必要な児童への手立て】 ・全体指導だけでなく、児童に応じて個別に指導し、児童自身の困り感を解消していく。最低限の基本的な技能の習得を目指す。 【活用が必要な児童への手立て】 ・自分の発想を試すことのできる題材や材料を用意する。									
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>＜方策＞</th><th>＜検証方法＞</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①道具や材料の使い方の基本や表現方法を児童の前で実際に実演して説明をする。また、ICT 機器や掲示を活用する。</td><td>①児童や作品の観察。毎時間全児童に声をかけて回るようにする。児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。</td></tr> <tr> <td>②導入で丁寧にねらいを確認し、表したいものを児童自らが見つけることができるようにする。</td><td>1学期の間にはさみ、のり、絵具、ねんどなどの基本的な道具や材料を正しく扱えるように指導する。</td></tr> <tr> <td></td><td>②児童や作品の観察。毎回の授業でねらいに沿った活動が行われているか確認する。</td></tr> </tbody> </table>		＜方策＞	＜検証方法＞	①道具や材料の使い方の基本や表現方法を児童の前で実際に実演して説明をする。また、ICT 機器や掲示を活用する。	①児童や作品の観察。毎時間全児童に声をかけて回るようにする。児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。	②導入で丁寧にねらいを確認し、表したいものを児童自らが見つけることができるようにする。	1学期の間にはさみ、のり、絵具、ねんどなどの基本的な道具や材料を正しく扱えるように指導する。		②児童や作品の観察。毎回の授業でねらいに沿った活動が行われているか確認する。
＜方策＞	＜検証方法＞								
①道具や材料の使い方の基本や表現方法を児童の前で実際に実演して説明をする。また、ICT 機器や掲示を活用する。	①児童や作品の観察。毎時間全児童に声をかけて回るようにする。児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。								
②導入で丁寧にねらいを確認し、表したいものを児童自らが見つけることができるようにする。	1学期の間にはさみ、のり、絵具、ねんどなどの基本的な道具や材料を正しく扱えるように指導する。								
	②児童や作品の観察。毎回の授業でねらいに沿った活動が行われているか確認する。								
4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u> ＜成果＞ ・ ＜課題＞ ・	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u> ・								
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u>									

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 体育科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題 ・遊びの経験に個人差があり、基本的な身体の使い方や動作が身に付いていない児童がいる。運動遊びやゲームなどを楽しく行うために必要な技能や体の使い方を身に付ける。 ・遊びのルールやゲームの目的が捉えられず、みんなで楽しく遊んだり運動したりすることができない児童がいる。 ・教え合う場、互いの良い所をまねしながら動きを習得できる学習の場を意図的に設ける。			
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 ・記載なし (2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等 ・児童の発達段階に応じて、様々な動きを繰り返し経験させる。また、その活動を繰り返す中で、試行錯誤したり、運動の特性に合わせてめあてやルールを工夫したりして、楽しく活動できるようにする。 ・基本の運動を多く体験させ、体の動かし方を習得し、幅広い運動経験を積み重ねられるようにする。 ・児童同士教え合う場や発表する場を設け、児童が達成感を味わえるようにする。			
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> ＜方策＞ ①動きに応じた体の使い方を準備運動に取り入れ、基本的な動きを身に付けさせる。 ②友達同士、よい動きを見付け合い、互いに認め合いながら活動する中で、幅広く技能を身に付けさせる。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> ＜検証方法＞ ①多様に体を使う運動を授業の導入時に実施して、必要な技能や体の使い方を身に付けさせることを目指す。 ②ペア、グループでの話し合い活動や教え合う場を、適切に設定する。また、毎学習の最後に振り返りの場を設け、学びを整理させる。 </td> </tr> </table>		＜方策＞ ①動きに応じた体の使い方を準備運動に取り入れ、基本的な動きを身に付けさせる。 ②友達同士、よい動きを見付け合い、互いに認め合いながら活動する中で、幅広く技能を身に付けさせる。	＜検証方法＞ ①多様に体を使う運動を授業の導入時に実施して、必要な技能や体の使い方を身に付けさせることを目指す。 ②ペア、グループでの話し合い活動や教え合う場を、適切に設定する。また、毎学習の最後に振り返りの場を設け、学びを整理させる。
＜方策＞ ①動きに応じた体の使い方を準備運動に取り入れ、基本的な動きを身に付けさせる。 ②友達同士、よい動きを見付け合い、互いに認め合いながら活動する中で、幅広く技能を身に付けさせる。	＜検証方法＞ ①多様に体を使う運動を授業の導入時に実施して、必要な技能や体の使い方を身に付けさせることを目指す。 ②ペア、グループでの話し合い活動や教え合う場を、適切に設定する。また、毎学習の最後に振り返りの場を設け、学びを整理させる。		
4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】 ＜成果＞ ・ ＜課題＞ ・	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】 ・ ・ ・		
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】 ・			

〈授業改善推進プラン 令和7年度第1学年 道徳科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題 ・登場人物の気持ちを想像したり、物事の事象について考えたりできない児童が2割程度いる。 ・教材の内容を、実生活に結び付けて考えたり、行動に生かしたりできない児童が2割程度いる。	
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 ・記載なし (2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等 ・ICT機器やイラストを用意したり、動作化や役割演技をしたりして場面を捉えやすくし、考えられるようにする。 ・実生活の課題から教材を作ったり、話題を実生活に置き換えたりして学習内容と生活課題を結び付けていく。	
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 ＜方策＞ ①人物の態度や表情、周囲の様子などが分かるよう ICT 機器を使ってイラストを提示して注視させることで、場面を捉えやすくし、自分の考えをもてるようにする。 ②実生活の課題から教材を作ったり、実生活に置き換えたりして課題と結び付け、自分事として考えられるようにする。 ＜検証方法＞ ①ワークシートの記入状況や発言の様子などで検証する。 ②ワークシートの記入状況や発言の様子などで検証する。	
4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】 ＜成果＞ ・ ＜課題＞ ・	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】 ・ ・ ・
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】 ・	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 国語科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題 令和7年度村学力調査では、「話を聞く」ことで8%、「文章を書く」ことで13%、全国平均から下回り課題が見られた。そのため、相手の話をよく聞いて理解すること及び自分の考えや思いを適切な表現で書く力を高めていく必要がある。	
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 - 記載なし (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等 【基礎基本が必要な児童への手だて】 - ペアやグループなどで話し合う機会を増やす。 - 文章構成の仕方について、繰り返し確認しながら、自分の考えや経験したことを文章で書く経験を増やす。 - 他教科や家庭学習と連携させ、学んだことを様々な場面で生かすことができるようにする。 【活用が必要な児童への手だて】 - 話し合い活動では、司会などの役割を設け、自分の考えを伝えるだけでなく、相手の考えを聞き出すことができるようにする。 - 話し合い活動を通して分かったことや考えたことについて書いたり、発表したりする機会を設ける。 - 友達の文章を読んで、気付いたことや考えたことを伝える機会を設ける。	
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 ＜方策＞ ① 話し合う機会を多く設定し、分かったことや考えたことを書いたり、発表したりする機会を設ける。 ② 週に1度、日記指導を行い、自分の好きなテーマで文章を書く機会を設ける。	＜検証方法＞ ① ノートやワークシートに分かったことや考えたことを書かせたり、発表させたりすることで話し手が知らせたいことを落とさないように聞くことができているか確認する。 ② 書いた日記は、ファイルに貼り溜めていき、過程を振り返ることができるようにする。段落や「はじめ」「中」「終わり」の構成、順序、自分の考えを明確にして文章を書くことができているか定期的に確認する。
4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u> ＜成果＞ ＜課題＞	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u>
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u>	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 算数科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 - 令和7年度村学力調査では、「たし算」と「長さ・かさ」の領域が全国平均を上回っていたが、「120までの数」、「ひき算」、「3つの数の計算」、「形」、「時計」、「絵を使ったグラフ」の領域では全国平均を下回り課題が見られた。 - 算数全般的において「主体的に学習に取り組む態度」の力を引き上げる必要がある。 - 特に文章問題の場面を捉え、正しく式を立てる力を高める必要がある。	
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 - 記載なし (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等 【基礎基本が必要な児童への手だて】 - 導入で単元に関係する学習内容をおさらいし、基礎的な計算や単位を正しく覚える。 - 単元ごとに小テストを実施し、スキルタイムなどを活用して補習を行う。 - 具体物の操作を通して、計算方法や図形の構成についての理解を深める。 - 問題文に線を引き、情報を視覚的に整理する。 - ブロックを使い、具体的操作を取り入れ、数の合成、分解を繰り返し行い、数の感覚を養う。 - ブロックを使った操作活動や問題文を絵や図で表したり、問題場面を具体的にイメージさせる活動を多く取り入れたりしながら、問題解決へつなげていく。 【活用が必要な児童への手だて】 - 自分の考えを図や言葉でノートに表現し、ペアやグループなどで発表する機会を設ける。 - 教科書の練習問題だけでなく、補充の問題に取り組ませる。	
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 ＜方策＞ ①導入やスキルタイム、家庭学習を活用し、繰り返し習ったことを確認する機会を設ける。1単元の中でも、こまめに習熟具合をみとるようにする。 ②ペアやグループによる学習で、半具体物や図、言葉を使って説明しあうことで、児童全員が「わかる」「できる」を体験できるようにする。	＜検証方法＞ ①ワークテストの知識と技能面で正答率8割を目標とする。2学期末までには思考を含めた3観点で正答率8割に到達させる。 ②自分の考えや、授業を通して分かったことなどをノートに書かせ、定期的に確認する。
4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】 ＜成果＞ ＜課題＞ 特になし	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】	

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 生活科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・語彙が少なく、体験を通して分かったことや考えたことを書いたり、話したりして表現することが課題である。
- ・生活体験が乏しく、物の見方や考え方に偏りがあることが課題である。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・記載なし
- （２）今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等
- ・見学したり、観察したりするポイントをおさえてから活動する。
- ・児童の日常生活において身近な場所や物事を取り上げる。
- ・体験するだけではなく、分かったことやできたことなどをワークシートに記入して書く、伝える活動を増やす。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①視点を具体的に示し、より詳しく見たり聞いたりすることができるようにする。
- ②地域の関係機関と連携して学習計画を立てる。
- ③單元ごとのワークシートを作成し、書いたり伝えたりする活動を行う。

<検証方法>

- ①活動に入る前に、個人のめあてを立てさせることで全員が同じ視点で物事を見られているか検証する。
- ②地域の関係機関に働きかけ、働いている人の想いや、行われている仕事について、様々な方法でまとめられているか検証する。
- ③ワークシートから分かったことやできたことなど自分の考えを記入できているか検証する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 音楽科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 ・音楽技能の機械的訓練に偏ってしまわないよう、音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで、「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。 ・鍵盤ハーモニカ奏の技能に大きく差がみられ、意欲の低下につながっている。 ・児童の興味・関心を生かし、「主体的に学習に取り組む態度」の力を伸ばしていく必要がある。							
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 ・記載なし (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等 【基礎基本が必要な児童】 ・個別に表現の技能を見取る機会を適宜設け、学習内容の達成状況を把握するとともに、その場でフィードバックを行い、児童が達成度や学びの方向を理解できるようにする。 ・番号唱や指だけの練習などを取り入れ、スムーズに鍵盤楽器の演奏に入れるようにする。 【活用が必要な児童】 ・考えた表現の工夫を試し、表現の印象に変化が生まれたことを価値付ける。 ・ICT視聴覚資料を活用し、自由な表現の発想を得られるようにする。							
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>＜方策＞</th><th>＜検証方法＞</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①曲やフレーズごとに短く区切り、評価を行う。 技能の習得と、スモールステップによる練習意欲向上を図る。</td><td>①達成数やスピードを集計し、振り返りカードなどと合わせて意欲の変化を確認する。9割の児童が意欲をもって練習に取り組み、8割の児童が正しい指使いで演奏できるようにする。</td></tr> <tr> <td>②習熟度に応じてペアを組み、互いの演奏を聴いたり、指使いを見合ったりする活動を取り入れ、児童同士の気付きや励ましを促す。</td><td>②ペア活動中のやり取りや、指導的役割の変化を観察し、振り返りカードと合わせて意欲の変化を確認する。</td></tr> </tbody> </table>		＜方策＞	＜検証方法＞	①曲やフレーズごとに短く区切り、評価を行う。 技能の習得と、スモールステップによる練習意欲向上を図る。	①達成数やスピードを集計し、振り返りカードなどと合わせて意欲の変化を確認する。9割の児童が意欲をもって練習に取り組み、8割の児童が正しい指使いで演奏できるようにする。	②習熟度に応じてペアを組み、互いの演奏を聴いたり、指使いを見合ったりする活動を取り入れ、児童同士の気付きや励ましを促す。	②ペア活動中のやり取りや、指導的役割の変化を観察し、振り返りカードと合わせて意欲の変化を確認する。
＜方策＞	＜検証方法＞						
①曲やフレーズごとに短く区切り、評価を行う。 技能の習得と、スモールステップによる練習意欲向上を図る。	①達成数やスピードを集計し、振り返りカードなどと合わせて意欲の変化を確認する。9割の児童が意欲をもって練習に取り組み、8割の児童が正しい指使いで演奏できるようにする。						
②習熟度に応じてペアを組み、互いの演奏を聴いたり、指使いを見合ったりする活動を取り入れ、児童同士の気付きや励ましを促す。	②ペア活動中のやり取りや、指導的役割の変化を観察し、振り返りカードと合わせて意欲の変化を確認する。						
4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u> ＜成果＞ ＜課題＞	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u>						
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u>							

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 図画工作科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

- ・2年生は6学年の中で最も図画工作の時数が多い。多様な単元を取り扱うとともに、1年生で取り扱った道具や材料を使いこなせるよう、技能を応用をした授業をしたり、造形遊びをしたり、授業を通して豊かな情操を身に着けるようにする。
- ・道具や材料の基本的な使い方をしっかりと理解し、つまずきなく楽しく活動できるようにする。
- ・お互いの作品の良いところを参考にしたり、以前学習したことを生かしたりすることができているので、さらにその力を高める。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・材料や道具などの使い方を掲示やICT機器を活用して確認して、工夫の仕方などを理解する。
- ・活動自体を楽しみ、新たな自分の側面や表現方法に気付けるように、体全体を使った活動や様々な材料を使った作品づくりなどを行う。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・導入時の道具や材料の使い方の指導は口頭だけでなく実演し、説明の後個別指導をする。
 - ・様々な材料を使う授業や、体全体を動かして表現する授業など、児童が意欲的に新しい表現に挑戦できるような授業を実施する。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①実物投影機で手元を映して道具や材料の使い方を実演し、解説をする。
- ②体全体を使った活動や様々な材料を使った作品づくりなどを行う。

＜検証方法＞

- ①児童や作品の観察。全児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。
1学期に基本的な技能を観察し、以降支援が必要な児童には適宜支援を行っていく。
- ②児童や作品の観察。全児童がある程度新たな表現方法の面白さなどに気付けるようにする。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 体育科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・学習のめあてを達成するためには、どのように運動に取り組めばよいのかを考えて活動する必要がある。
- ・「表現遊び」では、イメージを膨らませ、様々な動きで表現することに課題が見られた。
- ・友達の動きを見て、ポイントを見付けたり、やってみたりすることが必要である。

2. 課題改善に向けた取組状況

- (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容
- ・記載なし
- (2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等
- ・学習のねらいを掲示し、視覚的に分かりやすくする。
 - ・「紹介タイム」を設定し、よい動きを取り上げたり、全員で真似てみたりする機会を設ける。
 - ・運動をする前に動きのイメージを十分に共有する。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①考えを交流できる場を設定する。

<検証方法>

- ① 友達の動きを見たり、真似たり、考えを聞いたりすることを通して、自分の動きの幅を広げたり、運動のポイントを見付けたりすることができたか、ワークシートで振り返り、確認する。
- ② 学習のめあてや流れを理解して、意欲的に運動に取り組むことができたか、授業の最後に振り返らせ、確認する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

<課題>

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第2学年 道徳科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・登場人物の気持ちを多面的に想像したり、背景にある事象に目を向けたりすることに課題がある。
- ・教材、資料から、その道徳的価値を自分事として深く考え、実践、実行する力を身に付ける必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

- (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容
- ・記載なし
- (2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等
- ・「自分だったら」と、自身に置き換えて考える場の設定をする。
 - ・多様な考えを受け入れたり、多面的に物事を考えるための発問をしたりする。
 - ・学校生活や日常を振り返させたり、場面を想像しやすいように具体的なものを提示したりする。
 - ・場面の挿絵を提示したり、役割演技や動作化をしたりして考えをもたせやすくする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①児童の日常生活に関連させ、考える必然性や切実感のある発問づくりに努め、児童が物事を多面的・多角的に捉えたり、自己を見つめたりすることができるようにする。
- ②児童相互の考えを深めるために、目的に応じて効果的に話し合いが行われるよう工夫する。

<検証方法>

- ① 自分の考えをネームプレートやホワイトボードを活用して黒板に表示させたり、役割演技をして感じたことやワークシートに書いたことを伝え合ったりさせて、道徳的価値についてどのように考えたのか確認する。
- ② 考えをグループや全体で交流し、多様な考えに触れられるようにする。友達の話から考えたことについてワークシートに書かせ、検証する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 国語科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題 令和7年度村学力調査から、全国平均と同等の結果だった。問題別で見ると、多くの項目は全国平均を超えているが、「話を聞き取る」「文章を書く」「言葉の学習」について、全国平均から10%～20%下回っている。そのため、相手の話をよく聞いて理解すること及び自分の考えや思いを適切な表現で書く力を高めていく必要がある。	
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 - 学習の導入の言葉遊びや読み聞かせ、読書活動を行い、語句のまとまりや関係について興味をもたせ、身近なことを表す語彙を増やしていく。 - 音読指導を習慣化し文章のまとまりを捉えさせ、正しい口形、発声、間の取り方を身に付けさせる。 - 日記、手紙、新聞作り等、書く経験を書く表現を多く設け、書いて表現する力を付ける。 (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等 【基礎基本が必要な児童への手だて】 - 漢字の読みと書きが定着していくために反復学習を行う。 - 小単元等を生かして、使用できる語彙を増やしていく。 - 発問や指示を短文で伝えることで考えることを分かりやすくする。 - 物語文・説明分文において音読を学級内と宿題で関連付けながら成果として見られるようにする。 【活用が必要な児童への手だて】 - 新出漢字を使った熟語や文づくりにいつでも取り組める環境を整備する。 - 自分の考えを深めるために、他の意見がないか一人で考えたり友達と交流したりできる場を設定する。	
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 ＜方策＞ ①国語学習のスタートを漢字の読み書きか音読で始める。音読では、「はきはき・すらすら・正しく」を合言葉にし、音読テストを行う。漢字は自由進度学習とし、語彙をどんどん増やせるようにする。 ②1日にあったできことだけではなく、様々なテーマで日記指導を行い、書くことへの抵抗感をなくす。また、読み物教材で要約する力を高める。	＜検証方法＞ ①読み物学習内で、単元前半・中盤・後半で各一回、音読のテストを3回実施し、成果を味わえるようにする。また、漢字学習では、1ページ進むごとに先生にチェックをもらうシステムにし、定着状況を都度確認する。 ②週に1度以上、日記指導を行い、自分の好きなテーマで文章を書く機会を設ける。また、年間で約8本の読み物教材で一文要約に取り組み、話の主旨を捉える力を高める。
4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】 ＜成果＞ ＜課題＞	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】	

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 社会科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・父島列島に関連することだけに限定せずに、小笠原村全体や他地域にも目を向け、一般的な社会的事象への興味・関心、知識・技能を高める必要がある。
- ・社会科における学び方、問題解決的な学習を理解する必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・気付いたことのキーワードとなる語彙を全体で確認してから、自分の言葉で具体的にまとめていくようにする。
- ・観察や活動の視点を明確に示し、新たな気付きにつながるようにする。
- ・観察カードなど常時掲示し視覚的に捉えさせた、考えや意見を交流する時間を多く設定し、表現の方法の幅を広げさせる。
- ・日常生活に必要な基本的な技術の一つずつ取り組んでいき、できるようになったか確認をし、技術を増やしていく。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

【基礎基本が必要な児童への手だて】

- ・授業の導入で前時のおさらいをする。
- ・地図帳や教科書での基本的な調べ方を繰り返し指導する機会を設け、確実な習得を図る。

【活用が必要な児童への手だて】

- ・体験的な学習を増やし、自分で調べまといめ解決する学習方法の定着を図る。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①「問題づくり、事前学習、社会科見学、まとめ」の学習サイクルで、体験的な学びを言語化して表現できるようにする。
- ②「知りたい」「考えたい」という言葉が児童から実際に出てくるよう、資料提示や資料からの気づきを大切に扱い、学級全体で問題づくりを行う。

<検証方法>

- ①年に4回の社会科見学を設定し、同じ学習スタイルで学ぶことで、回数を重ねるごとに学び方の上達を目指す。
- ②学期に一度アンケートを取り、「自分が知りたいことや考えたいことを学ぶことができているか」を把握し、授業改善に生かす。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 算数科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 - 令和7年度学力調査では、全領域で課題が見られた。どの分野でも全国平均を下回っている。特に課題とされるのが「データの活用」である。 「はこの形」の誤答内容を分析したところ、展開図や棒を、立体に組み立てるイメージの難しさがある。空間認識能力を高める必要がある。 - 既習学習を使っの説明にも難しさがある。学習したことの復習が随時必要である。	
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 - 導入で単元に関係する学習内容をおさらいし、基礎的な計算や単位を正しく覚えるようにする。 - 単元ごとに小テストを実施し、スキルタイムなどを活用して補習を行う。 - 問題文に線を引き、情報を視覚的に整理する。 - 単元の終末に式から文章問題を自ら作る活動を行う。 (2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等 【基礎基本が必要な児童への手だて】 - 具体物や半具体物の操作を通して、図形の構成や計算の意義を感覚的に捉えられるようにする。例えば立体の展開図ならば、工作用紙を使って実際に切って組み立てる。距離感を養うために、実際に学校の近所を1km歩いてみて、長さや単位の測定を想像ではなく実感できるようにする。 【活用が必要な児童への手だて】 - ICT教材によるクイズ形式での振り返りや、自作問題作りなどを通して、児童が主体的に算数の学習に取り組み、学んだことを覚え、活かしたいと思える授業を行う。 - AIドリルの活用をしていしながら、確かな学力を身に付けさせる。	
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 ＜方策＞ ①具体物を操作したり体験したりすることで「わかる」を体感できるような授業を行う。 ②ペア学習やグループ学習を通して、友達に分かったことを自分の言葉で伝え、知識の定着を図る。 ③東京ベーシックテストでの課題となった単元を徹底的に復習し、既習学習の定着を図る。	＜検証方法＞ ①毎単元に一時間は、具体物の操作やグループ学習を取り入れ、学んだ知識や技能の定着を図る。 ②ワークテストの知識と技能面で正答率9割を目標とする。2学期末までには思考を含めた3観点で正答率9割に到達させる。9割に到達していれば、概ね学習内容が身についたと考えられる。 ③東京ベーシックテストを行い。既習した学習のどれくらい定着しているのかを図り、個に応じた課題プリントを実施し確かな定着を図る。
4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】 ＜成果＞ ＜課題＞	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】	

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 理科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 ・理科における学び方、問題解決的な学習を理解する。 ・小笠原に関連する地域教材だけでなく、一般的な理科的事象への興味・関心、知識・技能を高める必要がある。							
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 ・気付いたことのキーワードとなる語彙を全体で確認してから、自分の言葉で具体的にまとめていくようにする。 ・観察や活動の視点を明確に示し、新たな気付きにつながるようにする。 ・観察カードなど常時掲示し視覚的に捉えさせた、考えや意見を交流する時間を多く設定し、表現の方法の幅を広げさせる。 ・日常生活に必要な基本的な技術の一つずつ取り組んでいき、できるようになったか確認をし、技術を増やしていく。 (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等 【基礎基本が必要な児童への手だて】 ・毎回の授業、ノート指導で理科における学び方、問題解決型の学習習慣の定着を図る。 ・ICT機器を使って、視覚的に学習内容の確認を行う。 ・生き物学習（モンシロチョウ・昆虫・ひまわり・ほうせんか等）は、実物をできるだけ多く育て、体験的に学べる環境を整える。 【活用が必要な児童への手だて】 ・予想を考えるとときに、既習事項や生活経験を根拠に考えられるようにする。 ・実験や観察の結果をもとに、問題と結び付けて考察を考えられるようにする。							
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 <table border="1"> <tr> <th>＜方策＞</th><th>＜検証方法＞</th></tr> <tr> <td>①「知りたい」「考えたい」という言葉が児童から実際に出てくるよう、資料提示や資料からの気付きを大切に扱い、学級全体で問題づくりを行う。また、自分たちの生き物は責任をもって世話をさせる。また、観察する時間を十分に確保する。</td><td>①学期に一度アンケートを取り、「自分が知りたいことや考えたいことを学ぶことができているか」を把握し、授業改善に生かす。また、観察カードにはわかったことと考えたことを区別して書くように指導し即時評価していく。</td></tr> <tr> <td>②ICT機器を活用（kahoot）し、基礎基本の定着を図る。</td><td>②単元の終わりや学期終わりには、クイズ形式で復習を行うことで、基礎基本の定着をはかり、単元テストで平均90点以上を目指す。</td></tr> </table>		＜方策＞	＜検証方法＞	①「知りたい」「考えたい」という言葉が児童から実際に出てくるよう、資料提示や資料からの気付きを大切に扱い、学級全体で問題づくりを行う。また、自分たちの生き物は責任をもって世話をさせる。また、観察する時間を十分に確保する。	①学期に一度アンケートを取り、「自分が知りたいことや考えたいことを学ぶことができているか」を把握し、授業改善に生かす。また、観察カードにはわかったことと考えたことを区別して書くように指導し即時評価していく。	②ICT機器を活用（kahoot）し、基礎基本の定着を図る。	②単元の終わりや学期終わりには、クイズ形式で復習を行うことで、基礎基本の定着をはかり、単元テストで平均90点以上を目指す。
＜方策＞	＜検証方法＞						
①「知りたい」「考えたい」という言葉が児童から実際に出てくるよう、資料提示や資料からの気付きを大切に扱い、学級全体で問題づくりを行う。また、自分たちの生き物は責任をもって世話をさせる。また、観察する時間を十分に確保する。	①学期に一度アンケートを取り、「自分が知りたいことや考えたいことを学ぶことができているか」を把握し、授業改善に生かす。また、観察カードにはわかったことと考えたことを区別して書くように指導し即時評価していく。						
②ICT機器を活用（kahoot）し、基礎基本の定着を図る。	②単元の終わりや学期終わりには、クイズ形式で復習を行うことで、基礎基本の定着をはかり、単元テストで平均90点以上を目指す。						
4. 検証結果（成果と課題） 【年度末に記入する】 ＜成果＞ ＜課題＞	5. 令和8年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】						
6. 令和8年度（次学年）末に期待する児童（生徒）の姿 【年度末に記入する】							

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 音楽科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・音楽技能の機械的訓練に偏ってしまわないよう、音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで、「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。
- ・中学年に入ったことを受け、曲の特徴を捉えて鑑賞したり、表現を工夫したりする力を付けていく必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・曲を聴いたり絵譜を見たりして感じたことや気付いたことを発言したりワークシートに記入したりし、曲想の感じ取りを深めたり、それを生かした表現をしたりすることができるようにする。
- ・短いフレーズを一人ずつ歌ったり演奏したりし、技能の習得状況を把握して、必要に応じて個別指導を行うなどその後の指導に生かす。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

【基礎基本が必要な児童】

- ・個別に表現の技能を見取る機会を適宜設け、学習内容の達成状況を把握するとともに、その場でフィードバックを行い、児童が達成度や学びの方向を理解できるようにする。
- ・ICT機器及び教材を用いて、基礎的な知識の定着を図る。
- ・音楽を構成する要素の例を示し、特徴を聴き取る手がかりとする。

【活用が必要な児童】

- ・曲の特徴を生かした表現を試し、生まれた表現の変化を感じ取る活動を取り入れる。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①曲の構成・楽器・リズム・強弱・速さなど、音楽を構成する要素を整理しながら鑑賞できるワークシートを使用し、気付いたことと感じたことを分けて分析する練習をする。
- ②曲の特徴に合った表現を話し合って決める活動を取り入れ、互いの工夫を取り入れながら演奏に反映する。

＜検証方法＞

- ①ワークシートの記述を確認し、要素に分けてかいているか、気付いたことと感じたことを明確に区別しているかを評価する。
- ②グループ内での発言内容を記録し、それらの工夫が歌唱や演奏に反映されているか評価する。
8割の児童が、曲の特徴を捉えた表現について、思いや意図をもてるようにする。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 図画工作科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題 ・基礎基本的な道具や材料の使用方法を習得し、技術を身に付ける。 ・自分で考えたり、感じたりして豊かに表現や工夫する力をさらに高める。 ・様々な発想の方法をできるような発想する力をさらに高める。									
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 ・材料や道具などの使い方を掲示や ICT を活用して確認する。 ・児童作品を紹介したり、幅広く材料や道具などを選べる題材などを設定したりして、自分なりに考えたり、選んだりする活動を増やす。 (2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等 【基礎基本が必要な児童への手だて】 ・全体指導だけでなく、児童に応じて個別に指導し、児童自身の困り感を解消していく。最低限の基本的な技能の習得を目指す。 【活用が必要な児童への手だて】 ・自分の発想を試すことのできる題材や材料を用意する。									
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>＜方策＞</th><th>＜検証方法＞</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 掲示や ICT 機器を活用しての材料や道具の使い方を説明するとともに、様々な道具や材料に何度も触れる機会を増やす。</td><td>① 児童や作品の観察。毎時間全児童に声をかけて回るようにする。児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。</td></tr> <tr> <td>② 表したいものを見付けるための様々なアプローチを経験できるように、導入でねらいを明確にして伝え、児童がより意識できるようにする。</td><td>1 学期の間に釘打ちやグルーガンなどの基本的な道具や材料を正しく扱えるように指導する。</td></tr> <tr> <td></td><td>② 児童や作品の観察。毎回の授業でねらいに沿った活動が行われているか確認する。</td></tr> </tbody> </table>		＜方策＞	＜検証方法＞	① 掲示や ICT 機器を活用しての材料や道具の使い方を説明するとともに、様々な道具や材料に何度も触れる機会を増やす。	① 児童や作品の観察。毎時間全児童に声をかけて回るようにする。児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。	② 表したいものを見付けるための様々なアプローチを経験できるように、導入でねらいを明確にして伝え、児童がより意識できるようにする。	1 学期の間に釘打ちやグルーガンなどの基本的な道具や材料を正しく扱えるように指導する。		② 児童や作品の観察。毎回の授業でねらいに沿った活動が行われているか確認する。
＜方策＞	＜検証方法＞								
① 掲示や ICT 機器を活用しての材料や道具の使い方を説明するとともに、様々な道具や材料に何度も触れる機会を増やす。	① 児童や作品の観察。毎時間全児童に声をかけて回るようにする。児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。								
② 表したいものを見付けるための様々なアプローチを経験できるように、導入でねらいを明確にして伝え、児童がより意識できるようにする。	1 学期の間に釘打ちやグルーガンなどの基本的な道具や材料を正しく扱えるように指導する。								
	② 児童や作品の観察。毎回の授業でねらいに沿った活動が行われているか確認する。								
4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】 ＜成果＞ ・ ＜課題＞ ・	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】 ・								
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】									

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 体育科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題 ・児童が基本的な動作や運動の技能を身に付けるように、運動の目的や方法を理解させるとともに、繰り返しの練習の時間を確保する。 ・ルールや運動の仕方を理解し、誰もが楽しめるようにする。 ・運動との出会い方を工夫し、「やってみたい」と思えるようにする。			
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 ・児童の発達段階に応じて、様々な動きを繰り返し経験させる。また、その活動を繰り返す中で、試行錯誤したり、協同的に解決できるよう、運動の特性に合わせて、めあてやルールを工夫したりして、運動の楽しさを十分に味わえるようにする。 ・基本の運動を多く体験させ、体の動かし方を習得し、幅広い運動経験を積み重ねられるようにする。 ・児童同士教え合う場や発表する場を設け、児童が達成感を感じられる学習計画をたてる。 (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等 ・オリエンテーションで動画を視聴したり、漫画を読んだり、運動との出会いを工夫する。 ・児童同士が関わり合って学べるように学び方を丁寧に指導する。 ・運動へのかかわり方は「する」だけではないことを定期的に伝え、多様なかかわり方で楽しめるようにする。 ・形成的評価を取り、児童の思いと教師の思いが統合した授業を目指す。			
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 <table border="1"> <tr> <td> ＜方策＞ ①誰もが運動する楽しさを感じられるよう、ルールの簡単なゲームを導入し、競争よりも協力を重視する。努力や参加する姿勢を褒めることに重点を置き、児童の自信を育む評価システムを活用する。 ②運動との出会いにこだわり、教師が取り組んでいる動画や漫画を読むことで児童のやる気を引き出す。 </td> <td> ＜検証方法＞ ①授業中の参加率や積極性の観察、アンケートや口頭でのフィードバックを通じて児童の意欲や楽しさを感じているかを評価する。 ②振り返りカードや観察、アンケートから児童の「やってみたい」が引き出せている確認し授業改善につなげる。 </td> </tr> </table>		＜方策＞ ①誰もが運動する楽しさを感じられるよう、ルールの簡単なゲームを導入し、競争よりも協力を重視する。努力や参加する姿勢を褒めることに重点を置き、児童の自信を育む評価システムを活用する。 ②運動との出会いにこだわり、教師が取り組んでいる動画や漫画を読むことで児童のやる気を引き出す。	＜検証方法＞ ①授業中の参加率や積極性の観察、アンケートや口頭でのフィードバックを通じて児童の意欲や楽しさを感じているかを評価する。 ②振り返りカードや観察、アンケートから児童の「やってみたい」が引き出せている確認し授業改善につなげる。
＜方策＞ ①誰もが運動する楽しさを感じられるよう、ルールの簡単なゲームを導入し、競争よりも協力を重視する。努力や参加する姿勢を褒めることに重点を置き、児童の自信を育む評価システムを活用する。 ②運動との出会いにこだわり、教師が取り組んでいる動画や漫画を読むことで児童のやる気を引き出す。	＜検証方法＞ ①授業中の参加率や積極性の観察、アンケートや口頭でのフィードバックを通じて児童の意欲や楽しさを感じているかを評価する。 ②振り返りカードや観察、アンケートから児童の「やってみたい」が引き出せている確認し授業改善につなげる。		
4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u> ＜成果＞ ＜課題＞	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u>		
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u>			

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 道徳科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・教材、資料から、その道徳的価値について、自分事として深く考えられる力を身に付ける。
- ・考えたことを実践、実行する力を身に付ける。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年授業改善推進プラン記載内容

- ・学校生活や日常を振り返させたり、場面を想像しやすいように具体的なものを提示したりする。
- ・場面の挿絵を提示したり、役割演技や動作化をしたりして考えをもたせやすくする。
- ・道徳的価値に関わる事象を児童の実態に即して具体的な事例を挙げて考え、自分の生活とつなげて考えさせる。そして、自己の生き方の課題を考え、実現していこうとする思いや願いを深められるようにする。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・導入の発問、主発問、板書を工夫しながら授業のねらいが達成できるようにする。
- ・「なぜ」「どうして」「自分だったらどうするの」を問答しながら、議論する道徳を行う。
- ・毎時間必ずワークシートを使って児童の思いや考えを確認する。
- ・日頃の生活の中で、道徳の授業内で学んだ道徳的価値について、振り返り、確認をする。
- ・展開前段と後段のつながりを大切にし、後段の自分の考えをまとめる時間の確保を十分に行う。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①きれいごとではなく、本音で教材の中の人物等の気持ちに寄り添えるよう、問い返しを大切にする。
- ②板書を見れば、1時間の流れや重要な言葉、自分の気持ちの変容等が見取れるようにする。

＜検証方法＞

- ①「こういう考えもあるんじゃない？」などと、児童同士が自然と対話を始めるような姿が見られているかどうか。
- ②ワークシートの内容や授業評価アンケートで児童の気持ちに変容が生まれているか等を把握する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

自分とは違う意見や立場を理解できる児童

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第3学年 総合的な学習の時間〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

- ・小笠原独自の自然、文化、伝統を学び、その大切さを理解し、継承していこうとする気持ちを養う。
- ・第3学年として初めて「総合的な学習の時間」の学習に入るため、問題解決型、探求型の学習の進め方を理解する必要がある。
- ・地域の文化や自然の在り方に主体的に関わる態度を育てる必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・記載なし

(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・外部講師を活用し、専門的な学びを得るとともに、発表という目的意識をもって取り組めるようにする。
- ・導入で児童が疑問や課題意識をもち、より主体的に学習に取り組めるようにする。
- ・自分の学びの進みを確認できるワークシートを活用し、見通しをもって粘り強く取り組めるようにする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①地域の外部講師から一方的に指導を受けるだけでなく、児童が事前に質問を考え、インタビューを行う活動を取り入れる。
- ②発表を「聞く側」の学びも大切にし、質疑応答や意見交流の時間を確保する。他者の学びから自分の学びを広げる視点を養うとともに、発表に目的意識がもてるようにする。

＜検証方法＞

- ①インタビューやまとめの発表の場面での児童のかかわり方を観察、記録し、地域の文化や自然に主体的に関わる態度が育っているか、分析を行う。
- ②児童間のやり取りを記録するとともに、発表後に、他者の発表をどう受け止め、何を学んだかを振り返る時間を確保し、学びの深まりを分析する。

4. 検証結果(成果と課題) **【年度末に記入する】**

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 **【年度末に記入する】**

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 **【年度末に記入する】**

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第4学年 国語科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 ・令和7年度村学力調査より、正答率は全国平均 66.8%に対して校内平均は 2.2%下回った。 ・問題内容別にみると、特に誤答の多いのは、「話し合いの内容を聞きとる」「言葉の学習」「文章を書く」の3項目である。 ・中でも「言葉の学習」の正答率は 44.6%で、これは全国平均を 16.7%下回っている。 ・主語や述語の使い方をはじめ、正しく文章を書いたり読んだりする力をつける必要がある。							
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 ・物語文や説明文を読むポイントを提示する。 ・読み取ったことが視覚的に分かるように、色を分けて線を引く。 ・自分の考えを図や文を用いて表し、友達に説明する場面を多く設ける。 (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等 【基礎基本が必要な児童への手だて】 ・「書く」力を伸ばすために、学習内容をまとめて発表する活動を行う際、児童が作成した台本を添削・指導する。 ・文章の読み取りをクイズ形式にして出題することで、意欲をもって取り組めるようにする。 【活用が必要な児童への手だて】 ・自分の考えを発表する際に、理由や話の対象を明確にできているか確認するためのチェックリストを用意し、児童自身が自己分析できるようにしている。							
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>＜方策＞</th><th>＜検証方法＞</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 授業中やスキルタイムに、朝会など児童全体に向けた話についてクイズを出す時間を設ける。話を聞く必要感や必然性を設け、ポイントを絞って聞く習慣を付ける。</td><td>① どのような内容の話でも、教師側が提示出題したクイズを、児童全員が8割以上正答できるかを検証する。</td></tr> <tr> <td>② 様々なお題で1分間のスピーチを行う。理由や意図を明確にして話すことができるよう、事前に台本を作成・指導を行う。</td><td>② ペアで相互評価を行う。3学期末までに、8割の児童が、話の理由や意図を明確に相手に伝えられるようにする。</td></tr> </tbody> </table>		＜方策＞	＜検証方法＞	① 授業中やスキルタイムに、朝会など児童全体に向けた話についてクイズを出す時間を設ける。話を聞く必要感や必然性を設け、ポイントを絞って聞く習慣を付ける。	① どのような内容の話でも、教師側が提示出題したクイズを、児童全員が8割以上正答できるかを検証する。	② 様々なお題で1分間のスピーチを行う。理由や意図を明確にして話すことができるよう、事前に台本を作成・指導を行う。	② ペアで相互評価を行う。3学期末までに、8割の児童が、話の理由や意図を明確に相手に伝えられるようにする。
＜方策＞	＜検証方法＞						
① 授業中やスキルタイムに、朝会など児童全体に向けた話についてクイズを出す時間を設ける。話を聞く必要感や必然性を設け、ポイントを絞って聞く習慣を付ける。	① どのような内容の話でも、教師側が提示出題したクイズを、児童全員が8割以上正答できるかを検証する。						
② 様々なお題で1分間のスピーチを行う。理由や意図を明確にして話すことができるよう、事前に台本を作成・指導を行う。	② ペアで相互評価を行う。3学期末までに、8割の児童が、話の理由や意図を明確に相手に伝えられるようにする。						
4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】 ＜成果＞ ＜課題＞	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留						
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】							

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第4学年 社会科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

- ・令和7年度村学力調査より、正答率は全国平均70.2%に対して校内平均は1.7%下回った。
- ・問題内容別にみると、特に誤答の多いのは、「市の様子」「安全な暮らしー火事」「安全な暮らしー事故や事件」の3項目である。
- ・中でも「安全な暮らしー火事」の正答率は40.5%で、これは全国平均を11.5%下回っている。
- ・児童にとってあまり身近ではない学習内容についての理解が課題である。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容（生活科より）

- ・実際に体験することができる活動を多く取り入れる。
- ・見学したり、観察したりするポイントをおさえてから活動する。

(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

【基礎基本が必要な児童への手だて】

- ・イラストや図、映像など様々な形の資料に触れる機会を多く設定する。。
- ・小笠原村とほかの地域について、常に比較しながら学習を進める。

【活用が必要な児童への手だて】

- ・既習事項や生活経験を学習内容と関連付けて、自分の考えをもてるようにする。
- ・学習を通して分かったことに対して、自分なりの考えや意見をもてるようにする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①導入で児童にとって身近である小笠原の様子を想起してから、ほかの地域はどうなっているのか、クイズ形式で考える。
- ②資料から読み取ったことを、ノートや模造紙、ICT機器を用いて、見やすい形に整理する。

＜検証方法＞

- ①クイズへの回答やワークテストの知識理解の結果が8割以上か検証する。
- ②ノートや模造紙、ICT機器の記録で情報を関連付けてまとめられているか検証する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

自分たちの地域などの身近なことから、世界を広げて学んでいく児童

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第4学年 算数科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題 - 令和7年度学力調査では、全国平均を上回っていたのが3単元あった。しかし、「わり算」が全国よりも大きく下回り課題が見られた。 - わり算の計算の仕方を確認し、かけ算の学習の応用を確認する必要がある。 - かけ算の筆算や分数など、数のきまりや仕組みを理解する力を付ける必要がある。	
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 - 問題文に線を引き、情報を視覚的に整理する。 - 導入で単元に関係する学習内容をおさらいし、自力解決に生かす事ができるよう促す。 - 単元ごとに小テストを実施し、スキルタイムなどを活用して補修を行う。 (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等 【基礎基本が必要な児童への手だて】 - 定規や分度器など、算数用具を正しく使えるよう、ICT機器等を使いながら指導する。点と定規を確実にそろえたり、まっすぐ線をひいたりことを徹底する。 - 計算の仕方を確認し、算数用語を活用しながら指導していく。 - 個に応じた課題学習をA Iドリルなど活用しながら実施していく。 【活用が必要な児童への手だて】 - 自力解決の時間を十分にとり、自分の考えたことをまとめて、自信をもって発表できるようにする。早く終わった児童の考えは教師がチェックすることで、自信をもって発表できるようにする。 - ペア学習を取り入れ、自分の考えが友達に伝わるように発表する力を付ける。 - 個に応じた課題学習をA Iドリルなど活用しながら実施していく。	
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 ＜方策＞ ①前時のおさらいと本時の振り返りを丁寧に行い、算数に関する「知識・技能」の定着を図る。 ②友達との交流を通して、自分の考えたことを整理し、学習したことの理解を確かなものとする。 ③東京ベーシックテストでの課題となった単元を徹底的に復習し、既習学習の定着を図る。	＜検証方法＞ ①ワークテストの知識と技能面は、1学期中に正答率8割を目指す。その後、10月までに思考面も正答率8割を目標とする。 ②毎時間の児童の振り返りから、わかったことや疑問点などをみとる。2学期中には前述したことを自分の言葉でノートに書き表せるようにする。 ③東京ベーシックテストを行い。既習した学習のどれくらい定着しているのかを図り、個に応じた課題プリントを実施し確かな定着を図る。
4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】 ＜成果＞ ＜課題＞	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】	

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和 7 年度第 4 学年 理科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 ・ 令和 7 年度村学力調査より、正答率は全国平均 56.7%に対して校内平均は 6%下回った。 ・ 問題内容別にみると、特に誤答の多いのは、「身近なしぜんのかんさつ」「植物の育ち方」「光のせいしつ」の 3 項目である。 ・ 中でも「光のせいしつ」の正答率は 39.3%で、これは全国平均を 24.1%下回っている。 ・ 児童にとってあまり身近ではない学習内容についての理解が課題である。			
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和 5 年度授業改善推進プラン記載内容 ・ 実際に体験することができる活動を多く取り入れる。 ・ 見学したり、観察したりするポイントをおさえてから活動する。 (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等 【基礎基本が必要な児童への手立て】 ・ 見学や観察を通して、小笠原の自然の様子について興味関心をもつ。 ・ 生活経験をもとに学習問題に対して予想できるようにする。 【活用が必要な児童への手立て】 ・ 小笠原の自然の様子と、ほかの地域の自然の様子について比較して考える。 ・ 実験や観察の結果をもとに、問題と結び付けて結論を自分の言葉で考えられるようにする。			
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 <table border="1"> <tr> <td> ＜方策＞ ①小笠原の特殊な自然環境に着目し、教科書等の資料と比較しながら問題に取り組む。 ②予想、実験、結果、考察という学習の流れが筋道だったものになるよう指導する。 </td><td> ＜検証方法＞ ①ノートの記述内容から理解度を確認し、ワークテストの知識・理解で 8 割以上の結果になるか検証する。 ②ノートの記述内容を確認し、1 回の授業の流れが筋道だてて記述できている児童が 8 割以上になるか検証する。 </td></tr> </table>		＜方策＞ ①小笠原の特殊な自然環境に着目し、教科書等の資料と比較しながら問題に取り組む。 ②予想、実験、結果、考察という学習の流れが筋道だったものになるよう指導する。	＜検証方法＞ ①ノートの記述内容から理解度を確認し、ワークテストの知識・理解で 8 割以上の結果になるか検証する。 ②ノートの記述内容を確認し、1 回の授業の流れが筋道だてて記述できている児童が 8 割以上になるか検証する。
＜方策＞ ①小笠原の特殊な自然環境に着目し、教科書等の資料と比較しながら問題に取り組む。 ②予想、実験、結果、考察という学習の流れが筋道だったものになるよう指導する。	＜検証方法＞ ①ノートの記述内容から理解度を確認し、ワークテストの知識・理解で 8 割以上の結果になるか検証する。 ②ノートの記述内容を確認し、1 回の授業の流れが筋道だてて記述できている児童が 8 割以上になるか検証する。		
4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u> ＜成果＞ ＜課題＞	5. 令和 8 年度(次学年)の学習指導において特に留		
6. 令和 8 年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u> 生			

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第4学年 音楽科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・音楽技能の機械的訓練に偏ってしまわないよう、音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで、「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。
- ・リコーダー奏の技能に差がみられる。特に、指使いの定着や、短いフレーズを覚えて演奏することに課題がある。
- ・曲の特徴を捉えた表現について思いや意図をもつことはできているが、その表現には課題がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・曲を聴いたり絵譜を見たりして感じたことや気付いたことを発言したりワークシートに記入したりし、曲想の感じ取りを深めたり、それを生かした表現をしたりすることができるようにする。
- ・短いフレーズを一人ずつ歌ったり演奏したりし、技能の習得状況を把握して、必要に応じて個別指導を行うなどその後の指導に生かす。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

【基礎基本が必要な児童への手だて】

- ・個別に表現の技能を見取る機会を適宜設け、学習内容の達成状況を把握するとともに、その場でフィードバックを行い、児童が達成度や学びの方向を理解できるようにする。
- ・ICT 機器及び教材を用いて、リコーダー奏の練習を自分のやり方やペースで進める環境を整える。

【活用が必要な児童への手だて】

- ・適宜範唱・範奏をして表現の工夫のヒントを示し、児童が表現の引き出しを増やせるようにする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①「この曲をどう歌いたいのか/演奏したいのか」を曲の特徴を踏まえて考えてから表現活動に入ること、自らの表現の意図を自覚させる。また、振り返りカードで、自分で考えた表現の意図が、演奏などに反映できたか振り返る。
- ②ICT 機器を活用し、児童自身が自分の表現を録画、視聴し、指の動きや表現の工夫を自己評価する。メタ認知を促し、技能面の向上も図る。

＜検証方法＞

- ①発言や演奏の様子、振り返りカードを記録し、曲想の感じ取りや演奏の工夫を深めることができたか確かめる。8割の児童が意図に沿った表現を実践できるようにすることを目指す。
- ②自己評価と振り返り、事前・事後の演奏技能の個別見取りを通して、有効な手立てであったか検証する。すべての児童が自身の課題を把握し、8割の児童が改善点を実行できることを目指す。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

•

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第4学年 図画工作科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・基礎基本的な道具や材料の使用方法を習得し、技術を身に付ける。
- ・自分で考えたり、感じたりして豊かに表現や工夫する力をさらに高める。
- ・様々な発想の方法をできるように発想する力をさらに高める。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・材料や道具などの使い方を掲示や ICT を活用して確認して、工夫の仕方などを理解する。
- ・活動自体を楽しみ、新たな自分の側面や表現方法に気付けるように、体全体を使った活動や様々な材料を使った作品づくりなどを行う。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

【基礎基本が必要な児童】

- ・全体指導だけでなく、児童の習熟度に応じて個別に指導し、児童自身の困り感を解消していく。最低限の基本的な技能の習得を目指す。

【活用が必要な児童】

- ・自分の発想を試すことのできる題材や材料を用意する。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ① 掲示や ICT 機器を活用しての材料や道具の使い方
方を説明するとともに、様々な道具や材料に何
度も触れる機会を増やす。
- ② 導入でねらいを明確に伝えることによりねらい
の中で工夫することを意識させる。そして表し
たいものを見付けるための様々なアプローチを
経験できるように、様々な材料や手法を用意し
ておく。

<検証方法>

- ①児童や作品の観察。毎時間全児童に声をかけて回るようにする。児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。
- 1学期の間にのこぎりやかなづちなどの基本的な道具や材料を正しく扱えるように指導する。
- ②児童や作品の観察。毎回の授業でねらいに沿った活動が行われているか確認する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第4学年 体育科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 ・児童が基本的な動作や運動の技能を身に付けるために、運動の目的や方法を理解させるとともに、繰り返しの練習の時間を確保する必要がある。 ・児童が自分の動きを理解し、修正するための情報を、ICT 機器等を使って得られるようにする。	
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 ・多様な動きに触れる機会を設けたり、様々な動きを実際に見せたりすることでバリエーションを増やす。 ・「何のために活動するのか」目的を意識させ、活動に意欲的に取り組むことができるようにする。 (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等 【基礎基本が必要な児童への手だて】 ・表現運動や器械運動においては、個別に技能を見取る機会を設け、学習内容の達成状況を把握する。 ・児童へのアドバイス ICT 機器等も使いながらを行い、児童が達成度や学びの方向を理解できるようにする。 【活用が必要な児童への手だて】 ・児童同士がお互いの動きを見合うことで、アドバイスしあえるようにする。 ・特に運動が得意な児童が苦手な児童に対して、適切なアドバイスができるようにする。	
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 ＜方策＞ ①運動の行い方やルールに幅をもたせ、児童の能力に合わせて個別にチャレンジできる場を設定する。 ②教師や友達からのアドバイスの中で、改善点を具体的に伝えることで、単元途中にも目標を段階的に設定できるようにする。 ③自己評価の時間を取り入れることで、児童が自分の成長を自覚できるようにする。 ＜検証方法＞ ①単元の初めに、児童ごとに本単元での目標を決める。児童の運動能力向上の変化を定期的に記録し、全児童が設定された目標を達成できたかを評価する。 ②学習カードをチェックし、自己評価や友達のいいところ・気付いたところをどれだけ書けているか検証する。また、定期的な技術テストで動きがどのように変わったかを見取る。	
4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】 ＜成果＞ ＜課題＞	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第4学年 道徳科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

- ・日常生活の中から、様々な場面や行動に価値付けを行い、柔軟な人間性を養えるようにする。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・「自分だったら」と、状況を把握し、自身に置き換えて考える場の設定をする。
- ・多様な考えを受け入れたり、多面的に物事を考えるための発問をしたりする。

(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・授業の始めに、身近な場面や自分の経験をふり返り、価値項目への関心を高めるようにする。
- ・ワークシートに毎時間の振り返りを書き残し、後で振り返ることができるようにする。
- ・イラストを用いて、登場人物や場面を捉えやすいようにする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①身近な出来事や体験から気持ちを想像させる。
- ②毎時間自分の考えを書く時間を必ず確保する。

＜検証方法＞

- ❶思考の流れが分かりやすい板書を意識し、記録した児童の考えから検証する。
- ❷感想にならないように、発問を工夫したうえで記入させ、ワークシートの記述から検証する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第4学年 総合的な学習の時間〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

- ・小笠原ならではの文化や伝統に触れ、それらを継承していこうとする気持ちを養う必要がある。
- ・芸能系の単元では、技能的な指導に偏重してしまわないよう、芸能の体験を通して、地域の文化やその在り方に主体的に関わる態度を育てるように図っていく必要がある。
- ・課題解決型の学習を通して、道筋がすぐには明らかにならない問題に対しても、粘り強く解決しようとする力を高めていく必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・記載なし

(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・外部講師を活用し、現状を知ることによって「課題意識」や「目的意識」をもって取り組めるようにする。
- ・導入で児童が疑問や課題意識をもち、より主体的に学習に取り組めるようにする。
- ・年間を通して、人数や形態を変えた様々な発表形式を経験し、自分の学んだことや考えをまとめ、発表できるようにする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①外部講師による技能指導に加え、芸能の背景にある意味や文化、生活との関わりについても学習を行う。
- ②発表を「聞く側」の学びも大切にし、質疑応答や意見交流の時間を確保する。他者の学びから自分の学びを広げる視点を養うとともに、発表に目的意識がもてるようにする。

＜検証方法＞

- ①児童の発表内容から、単なる技能習得にとどまらず、背景理解がどの程度できているか、自分事としてとらえているかを分析する。
- ②児童間のやり取りを記録するとともに、発表後に、他者の発表をどう受け止め、何を学んだかを振り返る時間を確保し、学びの深まりを分析する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

小笠原の文化や自然に触れて、大事にしていくために考える児童

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 国語科〉

1. 「「分かる」から「できる」を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 - 令和7年度村学力調査から、全国平均を0.6%下回る結果であった。特に「記述」の回答形式では、全国平均よりも-17.1%と大きく下回った。 「書くこと」について校内平均正答率が35.3%で全国平均正答率54.9%と大きく下回った。	
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 - 漢字を学習する時間を確実にとり、教師が見とることを徹底する。 - 書いたことが詳しくれば詳しいほど、教師からの評価も高いことを実感させ、書きたい意欲を高める。 (2) 今年度実践している『「わかる」から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等 【基礎基本が必要な児童への手だて】 - 作文指導を定期的に設け、書く機会を増やす。 - 言葉の学習の中でも修飾語の復習を定期的に行う。 - 学習の感想や自分の意見などを交流して、ペア学習、トリオ学習の機会を設ける。 【活用が必要な児童への手だて】 - 文言の例を出したり、穴埋め形式にしたりして書きやすいようにする。 - 多様なジャンルの読書にチャレンジさせ、読書の幅を広げる。 - 設定した時間内にテストを終えることができるよう意識して単元テスト等を行う。	
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 ＜方策＞ ①毎月、作文指導を行い、漢字の活用を図る。 ②考えや意見を交流・質疑する話し合いの場を意図的、計画的に設定する。	＜検証方法＞ ①毎月作文の記録を学期ごとに検証し、時間内に意図する内容の作文を書ける児童8割を目指す。 ②ノート記録や話し合いの様子から検証する。
4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u> ＜成果＞ ＜課題＞	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u>
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u>	

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和 7 年度第 5 学年 社会科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 ・令和 7 年度村学力調査から、全国平均を－3.4%と下回っていた。特に基礎の問題で－4.4%下回っている。 ・「伝統や文化、先人の働き」の領域では、校内平均正答率が 37.3%で全国平均正答率 44.3%と大きく下回った。			
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和 5 年度授業改善推進プラン記載内容 ・身近な地域である小笠原について取り上げることで学習意欲を高める。教科書に記載されている市区町村の内容で一般的な知識を身に付けるようにする。 ・単元ごとに解明することを明確にすることで、自分たちで解決することを体感させる。また過程を振り返り、どのような手だてで解決したのかを明確にする。 (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等 【基礎基本が必要な児童への手だて】 ・「都道府県の様子」や「八方位」、「地図の見方」といった基礎的な理解を高めるために、授業の中で復習をしたり、都道府県のテストをくり返し行ったりする。 【活用が必要な児童への手だて】 ・資料を元に判断する力をつけるために、教科書、地図帳、資料集などの資料を活用しながら問題点や資料から読み取れることを友達同士で話し合う活動を多く用いる。			
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> ＜方策＞ ①スキルタイムなどを使って、「都道府県の様子」や「八方位」、「地図の見方」既習の学習内容を復習する時間を確保する。 ②教科書、地図帳、資料集などの資料を活用しながら問題点や資料から読み取れることを友達同士で話し合う活動を多く用いる。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> ＜検証方法＞ ①都道府県の位置と名称のテストを行い、80%以上の正答率を 8 割の児童が達成することを目指す。 ②プリントやノートなどで資料を活用し、読み取る活動で全員の児童が考えを書けることを目指す。 </td> </tr> </table>		＜方策＞ ①スキルタイムなどを使って、「都道府県の様子」や「八方位」、「地図の見方」既習の学習内容を復習する時間を確保する。 ②教科書、地図帳、資料集などの資料を活用しながら問題点や資料から読み取れることを友達同士で話し合う活動を多く用いる。	＜検証方法＞ ①都道府県の位置と名称のテストを行い、80%以上の正答率を 8 割の児童が達成することを目指す。 ②プリントやノートなどで資料を活用し、読み取る活動で全員の児童が考えを書けることを目指す。
＜方策＞ ①スキルタイムなどを使って、「都道府県の様子」や「八方位」、「地図の見方」既習の学習内容を復習する時間を確保する。 ②教科書、地図帳、資料集などの資料を活用しながら問題点や資料から読み取れることを友達同士で話し合う活動を多く用いる。	＜検証方法＞ ①都道府県の位置と名称のテストを行い、80%以上の正答率を 8 割の児童が達成することを目指す。 ②プリントやノートなどで資料を活用し、読み取る活動で全員の児童が考えを書けることを目指す。		
4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u> ＜成果＞ ＜課題＞	5. 令和 8 年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u>		
6. 令和 8 年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u>			

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 算数科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 - 令和7年度学力調査では、すべての領域において全国平均を下回っていた。中でも「わり算・計算のきまり」に課題がある。 「変わり方調べ」における○や□を使った式の関係性や、2つの数量性関係を式に表す基礎基本的な知識を身に付ける必要がある。 - 算数全般において、基礎基本の確立とともに、基礎を活用できるようにしていく必要がある。	
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 - 授業のねらいにつながる既習内容を確認し、児童が主体的に自力解決できるようにする。 - 具体物や半具体物の操作を通して、図形の構成や計算の意義を感覚的に捉えられるようにする。 - 基本的な計算の仕方の確認を行い、計算間違いを少なくする。 (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等 【基礎基本が必要な児童への手だて】 - 毎授業、前時のおさらいを丁寧に行う。授業のねらいにつながる既習内容を確認することで、児童の不安感を軽減し、主体的に自力解決できるようにする。 - 学習の系統の確認を行い、既習した学習を振り返る時間を必ず帯活動として毎授業に取り入れる。 【活用が必要な児童への手だて】 - 数の概念や図形をより具体的にイメージしやすいよう、ICT等を使って問題を可視化する。例えば、「小数」における文章問題では、数直線や線分図を使って分かっていることや聞かれていることを整理する。また「面積」や「角の大きさ」の学習では具体物や半具体物の操作を通して、図形の構成や計算の意義を感覚的に捉えられるようにする。 - 立式する際も、図・言葉で説明できるようにする。	
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 ＜方策＞ ①毎時間、授業の始めに既習内容の確認を行うことで、学習に対する不安感を軽減できるようにする。 ②自力解決の時間を十分にとるとともに、ヒントカードやICT教材などを使い、何度も問題を反復することで学習の習熟を図る。 ③東京ベーシックテストでの課題となった単元を徹底的に復習し、既習学習の定着を図る。	＜検証方法＞ ①2学期末までに、ワークテストの知識と技能(表面)において、それぞれ正答率8割を目標とする。8割を獲得できるようになれば、基礎的な内容は概ね身についたと考えられる。 ②何度も反復練習を行い、自分で解けた。解けるという実感を概ねの子がもてるようにする。 ③東京ベーシックテストを行い。既習した学習のどれくらい定着しているのかを図り、個に応じた課題プリントを実施し確かな定着を図る。
4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】 ＜成果＞ ＜課題＞	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 理科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題 ・令和7年度学力調査では、全国平均から0/1%上回っている。しかし、活用の問題では5.3%下回っていた。 ・「物質・エネルギー」（「電気のはたらき」「物のあたたまり方」）の領域では、校内平均正答率が47.9%で全国平均正答率52.9%と下回った。			
2. 課題改善に向けた取組状況 （1）令和5年度授業改善推進プラン記載内容 ・日常体験の想起や体験の中から疑問を見い出せるようにする。 ・まとめができた後で、さらに仮説を考えられるようにする。 （2）今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等 【基礎基本が必要な児童への手だて】 ・具体物を準備して、興味や関心を高めたり、実感を伴った理解を促したりできるようにする。 ・「電気のはたらき」の復習を学期末に行う。 【活用が必要な児童への手だて】 ・問題解決学習を通して、特に予想や考察場面で生活経験や既習事項を根拠に考えられるようにする。 ・「物のあたたまり方」の復習を学期末に行う。			
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 <table border="1"> <tr> <td> ＜方策＞ ①問題を発見し、予想し、考察する主体的な問題解決学習を展開する。 ②単元末には学習内容を整理・復習できるようにまとめのプリントを行う時間を確保する。 ③特に課題のあった「電気のはたらき」「物のあたたまり方」を中心に学期末に復習を行う。 </td><td> ＜検証方法＞ ①ノートの「予想」や「考察」、「まとめ」などから進捗や達成状況を通年検証し、学習に進んで臨む児童7割以上を目指す。 ②単元末のまとめのプリントの達成状況を検証し、理解度7割以上を目指す。 </td></tr> </table>		＜方策＞ ①問題を発見し、予想し、考察する主体的な問題解決学習を展開する。 ②単元末には学習内容を整理・復習できるようにまとめのプリントを行う時間を確保する。 ③特に課題のあった「電気のはたらき」「物のあたたまり方」を中心に学期末に復習を行う。	＜検証方法＞ ①ノートの「予想」や「考察」、「まとめ」などから進捗や達成状況を通年検証し、学習に進んで臨む児童7割以上を目指す。 ②単元末のまとめのプリントの達成状況を検証し、理解度7割以上を目指す。
＜方策＞ ①問題を発見し、予想し、考察する主体的な問題解決学習を展開する。 ②単元末には学習内容を整理・復習できるようにまとめのプリントを行う時間を確保する。 ③特に課題のあった「電気のはたらき」「物のあたたまり方」を中心に学期末に復習を行う。	＜検証方法＞ ①ノートの「予想」や「考察」、「まとめ」などから進捗や達成状況を通年検証し、学習に進んで臨む児童7割以上を目指す。 ②単元末のまとめのプリントの達成状況を検証し、理解度7割以上を目指す。		
4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】 ＜成果＞ ＜課題＞	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】		
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 音楽科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・音楽技能の機械的訓練に偏ってしまわないよう、音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで、「分かった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。
- ・歌唱技能に課題が見られる。高学年ということもあり、積極的に声を出し、表現を高めていくという意欲が低く、結果的に技能の低下がみられる。安心して声を出せる環境づくりが必要である。
- ・興味関心をもって、音楽の特徴を粘り強く聴き取ろうとする力に課題がある児童がみられる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・曲を聴いたり楽譜を見たりして感じたことや気付いたことを発言したりワークシートに記入したりし、曲の特徴について気付きを深めたり、それを捉えた表現をしたりすることができるようにする。
- ・短いフレーズを一人ずつ歌ったり演奏したりし、技能の習得状況を把握して、必要に応じて個別指導を行うなどその後の指導に生かす。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

【基礎基本が必要な児童への手だて】

- ・比較鑑賞を積極的に取り入れ、自ら興味のある音楽を選んで、鑑賞することができるようにする。
- ・心を解放するための体の動きを取り入れたエクササイズを行う。

【活用が必要な児童への手だて】

- ・自然で無理のない声の出し方について指導し、きれいでひびきのある声に関心がもてるようにする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①「表現の感想」「心に残ったこと」「新しく気付いたこと」などを授業ごとに振り返らせる。自身の内面と音楽とのつながりを意識させ、主体的に学習に取り組む態度の力を引き上げる。
- ②全体合唱の前に、安心できる2～4名のグループで選んだ場面を練習する活動を設ける。「無理なく」「安心して」声を出す経験を重ねる。

＜検証方法＞

- ①振り返りカードの記述内容の変化を記録し、有効な手だてであったか検証する。9割の児童が、主体的に鑑賞や歌唱の活動に取り組めることを目指す。
- ②児童観察、演奏聴取を通して、発声の変化や他者とのかかわり方を記録する。すべての児童が、全体合唱で安心して声を出せるようにする。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 図画工作科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題 ・基礎基本的な道具や材料の使用方法を習得し、技術を身に付ける。 ・自分で考えたり、感じたりして豊かに表現や工夫する力をさらに高める。 ・様々な発想の方法をできるように発想する力をさらに高める。							
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 ・材料や道具などの使い方を掲示やICTを活用したり、工夫している児童の活動を紹介したりする。 ・自分の思いや気持ちを主体的に表すことを試せるような活動の場を設定する。 (2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等 【基礎基本が必要な児童への手立て】 ・全体指導だけでなく、児童の能力に応じて個別に指導し、児童自身の困り感を解消していく。最低限の基本的な技能の習得を目指す。 【活用が必要な児童への手立て】 ・自分の発想を試すことのできる題材や材料を用意する。							
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>＜方策＞</th><th>＜検証方法＞</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①実際に材料や道具に触れながら練習をしたり、試行錯誤する時間を確保する。また、掲示物やICTを活用して指導をより分かりやすいものにする。</td><td>①児童や作品の観察。毎時間全児童に声をかけて回るようにする。児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。 1学期の間に電動糸のこぎりの刃の設置方法や使用方法などの基本的な道具や材料を正しく扱えるように指導する。</td></tr> <tr> <td>②導入でねらいを明確にして伝え、授業の目指す方向性をはっきりさせる。そのねらいの中で自分なりに表したいものを見付けられるようにする。</td><td>②児童や作品の観察。毎回の授業でねらいに沿った活動が行われているか確認する。</td></tr> </tbody> </table>		＜方策＞	＜検証方法＞	①実際に材料や道具に触れながら練習をしたり、試行錯誤する時間を確保する。また、掲示物やICTを活用して指導をより分かりやすいものにする。	①児童や作品の観察。毎時間全児童に声をかけて回るようにする。児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。 1学期の間に電動糸のこぎりの刃の設置方法や使用方法などの基本的な道具や材料を正しく扱えるように指導する。	②導入でねらいを明確にして伝え、授業の目指す方向性をはっきりさせる。そのねらいの中で自分なりに表したいものを見付けられるようにする。	②児童や作品の観察。毎回の授業でねらいに沿った活動が行われているか確認する。
＜方策＞	＜検証方法＞						
①実際に材料や道具に触れながら練習をしたり、試行錯誤する時間を確保する。また、掲示物やICTを活用して指導をより分かりやすいものにする。	①児童や作品の観察。毎時間全児童に声をかけて回るようにする。児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。 1学期の間に電動糸のこぎりの刃の設置方法や使用方法などの基本的な道具や材料を正しく扱えるように指導する。						
②導入でねらいを明確にして伝え、授業の目指す方向性をはっきりさせる。そのねらいの中で自分なりに表したいものを見付けられるようにする。	②児童や作品の観察。毎回の授業でねらいに沿った活動が行われているか確認する。						
4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】 ＜成果＞ ・ ＜課題＞ ・	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】 ・						
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】							

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 家庭科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 ・家庭科の学習は、自分の生活に直結するものであるため、学習したことを生活の中で活用する力をさらに高める。 ・手縫いやミシン縫いによる目的に応じた縫い方の技能を定着させる。 ・学習した調理を生活の中でも活用できる技能を定着させる。			
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 ・過去の記載はなし。 (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等 ・実際の技能面の写真や動画を活用することによってどのように行うか分かりやすいように工夫をする。 ・掲示物や資料の提示の仕方を工夫し、繰り返し見て覚えられるようにする。 ・練習時間を十分にとり、技能の定着を図る。			
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> ＜方策＞ ①手縫いやミシン縫いでは写真や動画で全体指導をした後に、クロームブック等で自分のタイミングで動画を視聴できるようにする。 ②調理では分担をできる限り一人一役にし、それぞれの技能が見つくように、声かけ、評価をしていく。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> ＜検証方法＞ ①作品の観察と技能テストを行う。児童が、手縫い・ミシン縫いの技能を正しく身に付けることができるようにする。シンを使用する題材が終わるまでに、ミシンのテストを行う。全員が合格できることを目標とする。 ②調理実習中に一人一人の評価を行い、どの程度技能が身に着いているかをチェックをする。 </td> </tr> </table>		＜方策＞ ①手縫いやミシン縫いでは写真や動画で全体指導をした後に、クロームブック等で自分のタイミングで動画を視聴できるようにする。 ②調理では分担をできる限り一人一役にし、それぞれの技能が見つくように、声かけ、評価をしていく。	＜検証方法＞ ①作品の観察と技能テストを行う。児童が、手縫い・ミシン縫いの技能を正しく身に付けることができるようにする。シンを使用する題材が終わるまでに、ミシンのテストを行う。全員が合格できることを目標とする。 ②調理実習中に一人一人の評価を行い、どの程度技能が身に着いているかをチェックをする。
＜方策＞ ①手縫いやミシン縫いでは写真や動画で全体指導をした後に、クロームブック等で自分のタイミングで動画を視聴できるようにする。 ②調理では分担をできる限り一人一役にし、それぞれの技能が見つくように、声かけ、評価をしていく。	＜検証方法＞ ①作品の観察と技能テストを行う。児童が、手縫い・ミシン縫いの技能を正しく身に付けることができるようにする。シンを使用する題材が終わるまでに、ミシンのテストを行う。全員が合格できることを目標とする。 ②調理実習中に一人一人の評価を行い、どの程度技能が身に着いているかをチェックをする。		
4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u> ＜成果＞ ＜課題＞	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u>		
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u>			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 体育科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・する、みる、支える、知る4つの体育の見方・考え方で運動を楽しめるようにする。各領域において児童が「体を動かすことが楽しい」と感じる必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・領域ごとのオリエンテーションを充実させる。
- ・児童の声で授業展開を変えていく。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・毎時間の振り返りを大切にする。
- ・主運動につながる運動(リズム○○)を授業の初めに行い、友達と関わりながら楽しんで運動が行えるようにする。
- ・共有ボードを用いて、本時の流れやめあてを分かりやすくする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①毎時間振り返りを行い、客観的に自分を見たり、次時への意欲付けを行ったりする。
- ②主運動につながる運動(リズム○○)を授業の初めに行い、友達と関わりながら楽しんで運動が行えるようにする。
- ③共有ボードを用いて、本時の流れやめあてが分かりやすいようにする。

＜検証方法＞

- ①振り返りをワークシートに書かせる。児童が工夫したこと、楽しかったことなど振り返らせる。9割の児童が客観的に自分を見て振り返りを書けるようにする。
- ②ボール運動の準備運動では、その単元で高めたい基礎的な技能を時間内に取り入れる。また、単元中、帯でその運動を取り入れる。さらに、音楽を使用してリズム感をつけて、心と体をほぐせるようにする。全児童がゲームを成り立たせるうえで最低限必要な技能が身に付くようにする。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 外国語科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 児童によって学習意欲に差が出てきている。外国語を学ぶことに意欲的な児童が少数はいるものの、全体的には外国語への関心意欲は低い。また、意欲はあるものの自信のなさから進んで外国語を活用することができない。							
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 アクティビティを導入などで多く行い、英語に親しむことで、意欲の向上を図る。 ・ 掲示物を工夫し、単元で重要な英文などは掲示して日常的に親しませる。 ・ スキルタイム等でタイピング練習を行い、繰り返しローマ字入力をする。 (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等 ・ ICTを活用した映像教材によるリスニングやALTの活用場面の設定を多くし、外国語の音に親しみ、慣れるようにする。 ・ 既習事項の会話表現や単語等を繰り返し使うことで定着するようにする。							
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>＜方策＞</th><th>＜検証方法＞</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①外国語を用いることに不安を感じる児童が多いので、ICTを活用した視覚的な教材を用いることで、安心して外国語を話せる環境を整える。</td><td>①視覚的にも会話表現や単語等を確認できるように教材を用いてロールプレイや発声練習を行うことで意欲的に取り組む児童を増やす。</td></tr> <tr> <td>②外国語を用いることに自信のない児童が多くいるので、ALTや担任、またはクラスメイトと外国語を用いてコミュニケーションを取る場面を多く設定することで、外国語に親しみ、学習する意欲を向上する。</td><td>②外国語を使うことへの意識アンケート、例えば「友達と外国語でコミュニケーションを取るとは楽しい」等を実施して児童の意欲関心の変容の様子を測る。</td></tr> </tbody> </table>		＜方策＞	＜検証方法＞	①外国語を用いることに不安を感じる児童が多いので、ICTを活用した視覚的な教材を用いることで、安心して外国語を話せる環境を整える。	①視覚的にも会話表現や単語等を確認できるように教材を用いてロールプレイや発声練習を行うことで意欲的に取り組む児童を増やす。	②外国語を用いることに自信のない児童が多くいるので、ALTや担任、またはクラスメイトと外国語を用いてコミュニケーションを取る場面を多く設定することで、外国語に親しみ、学習する意欲を向上する。	②外国語を使うことへの意識アンケート、例えば「友達と外国語でコミュニケーションを取るとは楽しい」等を実施して児童の意欲関心の変容の様子を測る。
＜方策＞	＜検証方法＞						
①外国語を用いることに不安を感じる児童が多いので、ICTを活用した視覚的な教材を用いることで、安心して外国語を話せる環境を整える。	①視覚的にも会話表現や単語等を確認できるように教材を用いてロールプレイや発声練習を行うことで意欲的に取り組む児童を増やす。						
②外国語を用いることに自信のない児童が多くいるので、ALTや担任、またはクラスメイトと外国語を用いてコミュニケーションを取る場面を多く設定することで、外国語に親しみ、学習する意欲を向上する。	②外国語を使うことへの意識アンケート、例えば「友達と外国語でコミュニケーションを取るとは楽しい」等を実施して児童の意欲関心の変容の様子を測る。						
4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】 ＜成果＞ ・ ＜課題＞	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】						
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】							

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和 7 年度第 5 学年 道徳科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題 ・教材の内容が理解できない児童が 1 割程度いる。 ・場面の課題を受けて、自分の考えを書けない児童が 2 割程度いる。	
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和 5 年度授業改善推進プラン記載内容 ・話の内容を多角的多面的に捉えられるようにする。 ・人との意見の違いを感じながら、多様な考え方に触れて自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。 (2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等 ・ICT 機器やイラストを用意したり、動作化や役割演技をしたりして場面を捉えやすくし、考えられるようにする。 ・実生活の課題から教材を作ったり、話題を実生活に置き換えたりして学習内容と生活課題を結び付けていく。	
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 ＜方策＞ ①人物の態度や表情、周囲の様子などが分かるよう ICT 機器を使ってイラストを提示して注視させることで、場面を捉えやすくし、自分の考えをもてるようにする。 ②実生活の課題から教材を作ったり、実生活に置き換えたりして課題と結び付け、自分事として考えられるようにする。	＜検証方法＞ ①ワークシートの記入状況や発言の様子などで検証する。 ②ワークシートの記入状況や発言の様子などで検証する。
4. 検証結果(成果と課題) <u>【年度末に記入する】</u> ＜成果＞ ＜課題＞	5. 令和 8 年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 <u>【年度末に記入する】</u>
6. 令和 8 年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 <u>【年度末に記入する】</u>	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第5学年 総合的な学習の時間〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

- ・5年の総合的な学習では、年間を通してアオウミガメについて学ぶ。例年、ウミガメの知識を得る時間が長く、児童主体の問題解決学習になっていなかった。そこで児童がウミガメについて学ぶ過程において、自ら課題を設定し、課題に向き合い考える力を高める。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・アオウミガメに関心をもてるように外部講師を招聘したり、実際に触れ合ったりしながら知識を高める。
- ・学習の振り返りを学習ごとに行う。

(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・まず児童がウミガメ学習をする上で知りたいこと学びたい課題を整理し、そのうえで1学期はウミガメについての知識理解を体験を通して行う。2学期はウミガメの生態学習と課題発見、課題解決にバランスよく取り組ませる。そして3学期に学んだことを発表する。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①児童が課題を見付けられるように授業を組み立て、課題解決を自主的に出来るように意欲喚起を行う。
- ②体験活動によりウミガメを身近に感じさせ、更に意欲が増すようにする。

＜検証方法＞

- ①ワークシートの記入状況や発言の様子、最終的に作成する発表などで検証する。
- ②ワークシートの記入状況や発言の様子、最終的に作成する発表などで検証する。

4. 検証結果(成果と課題) **【年度末に記入する】**

＜成果＞

・

＜課題＞

・

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 **【年度末に記入する】**

・

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 **【年度末に記入する】**

・

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 国語科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題 令和7年度の村学力調査の結果は、総合的に全国平均を10%以上下回る結果となった。特に「書くこと」の領域では、全国平均より－20%と大きく下回っている。中でも「目的に応じて文章を書く」や「資料から読み取った事実を構成や展開を踏まえて書く」ことに課題があるので、文章を書く時間を継続的に設けて解決していく必要がある。	
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 ・語彙を増やすために、国語辞典を活用して様々な意味の言葉に触れる機会を多く作ったり、問いに対する答え方を提示したりする。 ・ノートに自分の考えを書き表す場を多く設定する。 (2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等 【基礎基本が必要な児童への手だて】 ・文章を書くときに、題材文のキーワードに線を引かせたり、グループワークで筆者の考えに対してどう思うか話し合ったりしたあとに、自分の考えを書くようなステップで「書く」ことに取り組めるようにする。 【活用が必要な児童への手だて】 ・説明文や物語文に対する考えの説得力を高めるためにどうするか問いかけ、調べたり経験したりしたことを根拠に自分の考えをもてるようにする。また、条件を指定して、自分の考えを書くような機会も設ける。	
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 ＜方策＞ ①朝の時間やスキルタイムに新聞記事（ニュース記事）を読み、自分の考えを書く時間を設ける。また、書いたものをもとに意見交換し、多様な意見・書き方に触れる。 ②スキルタイムに継続的に100マス程度の作文を3分間で実施する。題材は児童に委ねる時もあれば教師側から指定するときもある。書くことへの抵抗感を減らし、児童同士で推敲し、教員が確認することで、文章の質を上げていく。	＜検証方法＞ ①毎週1回以上実施し、「事実を読み取って書いているか」「書いた内容がより具体的になってきたか」「理由は明確になっているか」「説得力を高める文章校正になっているか」を検証する。 ②毎週1回以上実施し、「文章量が増えているか」「目的に合った文章になっているか」「工夫した表現を使っているか」「適切な文章の構成になっているか」を検証する。
4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】 ＜成果＞ ＜課題＞	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】	

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 社会科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

令和7年度の村学力調査の結果は、総合的に全国平均を20%以上下回る結果となった。特に「国土の自然などの様子」の領域では、全国平均より－25%程度と大きく下回っている。中でも「六大陸三海洋」や「アメリカの位置と国旗」などの知識面に課題があるので、学習したことを復習したり、その知識を用いて考えたりする活動が必要である。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・教科書に載っている資料だけでなく、様々な統計資料や映像資料を活用し、読み取る練習をする。
- ・資料から読み取れることを記録する。
- ・ICTを活用し、実際の様子を見てイメージできるようにする。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

【基礎基本が必要な児童への手だて】

- ・ICT機器などを活用して、具体物や映像、写真を使って視覚的に理解できるようにする。
- ・体験的な学習や日常生活との関連付けを授業内に取り入れる。
- ・定期的に小テストやクロスワード、クイズなどを行い、知識の定着を図る。

【活用が必要な児童への手だて】

- ・まとめる段階で、「どの学習内容が関係しているか」をふり返る場面を設けることで、知識を関連付けたり総合したりできるようにする。
- ・思考場面では、児童自身の生活と結び付けたり、歴史であれば今とのつながりを考えたりできるように視点を与えることで、社会的事象の見方・考え方を働かせられるようにする。
- ・グループで学習問題に対して話し合いを行い、学びを深める機会を設ける。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①児童の関心の高い日常生活に結び付けたり、具体物や写真、映像を用いたりして、知識を実感しながら得ることができるようにする。
- ②スキルタイムなどで、学習内容についての小テストやクイズで知識の定着を図る。
- ③「自分だったら」や「今とのつながり」を意識して、学習問題に対する自分の考えを書けるようにするために、小グループでの話し合いの機会を設ける。

＜検証方法＞

- ① 知識を定着するには、イメージを伴っているかが大事なので、毎単位時間の学習のまとめやテストで8割以上の得点がとれるか検証する。
- ②学期末に学習してきた単元の知識に関するまとめテストを実施し、9割以上とれるか検証する。
- ③まとめる段階の「学習問題に対する自分の考え」の記述内容に「自分自身との結びつき」や「今とのつながり」が適切に書いてあるか検証する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 算数科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題 - 令和7年度学力調査では、「面積」領域が全国平均を上回っていた。一方、他領域では全国平均を下回っており、特に「分数の計算」「整数の仲間分け」において課題が見られた。 - 算数全般的において「主体的に学習に取り組む態度」の力を引き上げる必要がある。 - 特に「数と計算」領域について、基礎的な問題が正確に解ける力を付ける必要がある。	
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 - スキルタイムでは既習学習の内容を復習する時間を確保する。 - ICT機器を効果的に授業の中で活用し、提示する。 - 生活の中のものをテーマにしてデータを収集し、グラフを作成して分かることや傾向などを読み取る活動を実施する (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等 【基礎基本が必要な児童への手だて】 - 毎授業、前時のおさらいを丁寧に行う。授業のねらいにつながる既習内容を確認することで、児童の不安感を軽減し、主体的に自力解決できるようにする。 - AIドリルを活用し、個に応じた課題設定をする。 【活用が必要な児童への手だて】 - 数の概念や図形をより具体的にイメージしやすいよう、ICT・具体物等を使って問題を可視化する。「分数の計算」や「比」における文章問題では、数直線や線分図を使ってわかっていることや聞かれていることを整理する。 - 立式する際も、図や言葉で説明できるようにする。	
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 ＜方策＞ ①既習事項とのつながりを意識させることで、児童の不安感を軽減し、学習内容へのスムーズな導入を図り、主体的に学習に取り組めるようにする。児童の自作問題でおさらいをするなど、児童が主体的に取り組めるよう工夫する。 ②ペアやグループによる学習で、半具体物や図、言葉を使って説明しあうことで、児童全員が「わかる」「できる」を体験できるようにする。 ③東京ベーシックテストでの課題となった単元を徹底的に復習し、既習学習の定着を図る。	＜検証方法＞ ①ワークテストの知識・技能・思考の3観点において、それぞれ正答率8割を目標とする。8割を獲得できるようになれば、基礎的な内容は概ね身についたと考えられる。 ②2学期末までに、自分の考えや、授業を通して分かったことなどをノートに書きあらわせるようにし、検証する。 ③東京ベーシックテストを行い、既習した学習のどれくらい定着しているのかを図り、個に応じた課題プリントを実施し確かな定着を図る。
4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】 ＜成果＞ ＜課題＞	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 理科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

令和7年度の村学力調査の結果は、総合的に全国平均を10%程度下回る結果となった。問題別に見ると、特に「天気の変化」と「物のとけ方」では、全国平均よりも20%以上下回る結果となっている。全体的に、学習した知識が定着しておらず、知識を活用することができていない傾向がある。学んだことを復習したり、生かしたりする手だてが必要である。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・必要感をもたせるために、「なぜ？」を引き出す導入の工夫を行う。
- ・予想と理由を分けて考えることで、「難しい」という考えをなくすようにする。
- ・思考を整理するために、ノートに明確に自分の考えを書き表せるようにする。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

【基礎基本が必要な児童への手だて】

- ・知識を小分けにして、整理できるように單元ごとに理科用語シートを用意する。
- ・ゲーム性を取り入れて、反復学習を行い、知識を習得する機会を設定する。

【活用が必要な児童への手だて】

- ・問題解決学習を通して、特に予想や考察場面で生活経験や既習事項を根拠に考えられるようにする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ① ICT機器などを用いて、「理科用語シート」に授業内で出てきた理科の語句を文章だけでなく、図や絵で表し、知識を整理できるようにする。
- ② 授業の始めや単元のまとめで、学習したことをもとに児童同士でクイズを出し合う。
- ③ 対話を通して、予想や考察の場面で生活経験や既習事項と関連させて考えるように視点を示す。

＜検証方法＞

- ① 単元のまとめで理科用語を用いてまとめられているかと単元まとめテストで9割以上とれているか2点で検証する。
- ② プレテストでは9割以上、単元まとめテストで9割以上とれているか検証する。
- ③ ノートやワークシートの記述内容に妥当性があり、生活経験や既習事項が記載されているか確認する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 音楽科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 ・音楽技能の機械的訓練に偏ってしまわないよう、音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで、「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。 ・既習の楽典知識や、歌唱の技能が十分に定着していない児童が多くみられる。 ・児童の興味・関心を引き出し、主体的に学習に取り組む態度の力を引き上げていく必要がある。	
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 ・曲を聴いたり楽譜を見たりして感じたことや気付いたことを発言したりワークシートに記入したりし、曲の特徴について気付きを深めたり、それを捉えた表現をしたりすることができるようにする。 ・短いフレーズを一人ずつ歌ったり演奏したりし、技能の習得状況を把握して、必要に応じて個別指導を行うなどその後の指導に生かす。 (2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等 【基礎基本が必要な児童への手だて】 ・曲を聴いたり楽譜を見たりして曲の特徴についての気付きを深めたり、様々な表現方法を試したりして、曲の特徴を捉えた表現ができるようにする。 ・ICT 機器及び教材を用いて、自らの学習状況に合わせた学習の仕方を選択できるようにする。 ・児童の興味・関心に合わせた教材の選択により、意欲を高める。 【活用が必要な児童への手だて】 ・曲を聴いたり表現したりして曲の特徴についての理解を深め、それら曲の特徴にふさわしい表現について思いがもてるようにする。	
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 ＜方策＞ ①歌唱や合奏などで、教材の表現方法・パートをグループで選び、役割を分担して学習を進める活動を取り入れる。学び方を児童が選ぶことで、主体的に学習に取り組む態度を高める。 ②楽典知識の積極的な活用を促す。強弱記号や音符の音価などを教材ごとに丁寧に指導する。ミニテストを実施し、短時間での反復・定着を図る。	＜検証方法＞ ①授業毎に振り返りカードを書く活動を実施する。話し合いの記録や振り返りカードを記録し、協力度やそれによる達成感が味わえているかどうかを分析する。 ②題材ごとにミニテストの正答率を比較し、効果を比較する。9割の児童が、強弱記号や正しい音価を理解し、演奏に生かせるようにする。
4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】 ＜成果＞ ＜課題＞	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 図画工作科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題 ・基礎基本的な道具や材料の使用方法を習得し、技術を身に付ける。 ・自分で考えたり、感じたりして豊かに表現や工夫する力をさらに高める。 ・様々な発想の方法をできるような発想する力をさらに高める。	
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 ・材料や道具などの使い方を掲示や ICT を活用して確認する。 ・児童と実際にその材料や道具で工夫できるところを確認し、実際に試すことのできる学習場面を設定する。 (2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等 【基礎基本が必要な児童】 ・全体指導だけでなく、児童の能力に応じて個別に指導し、児童自身の困り感を解消していく。最低限の基本的な技能の習得を目指す。 【活用が必要な児童】 ・自分の発想を試すことのできる題材や材料を用意する。	
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 ＜方策＞ ①掲示や ICT 機器を活用しての材料や道具の使い方を説明するとともに、様々な道具や材料に何度も触れる機会を増やす。 ②表したいものを見付けるための様々なアプローチを経験できるように導入の中でねらいを明確にして伝えることにより意識させる。	＜検証方法＞ ①児童や作品の観察。毎時間全児童に声をかけて回るようにする。児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。 1学期の間に電動糸のこぎりやのこぎり、釘打ちといった既習の基本的な道具や材料を正しく扱えるように指導する。 ②児童や作品の観察。毎回の授業でねらいに沿った活動が行われているか確認する。
4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】 ＜成果＞ ・ ＜課題＞ ・	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】 ・
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 家庭科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 ・家庭科の学習は、自分の生活に直結するものであるため、学習したことを生活の中で活用する力をさらに高める。 ・ミシン縫いによる目的に応じた縫い方の技能を定着させる。 ・学習した調理を生活の中でも活用できる技能を定着させる。			
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 ・なし (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等 ・個別の評価を行い、個々の技能の定着を図る。 ・進みの早い児童には別の課題や応用の課題を出し、さらに技能の定着を図る。 ・児童間での学び合い、教え合いができる工夫をする。			
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 <table border="0"> <tr> <td style="vertical-align: top;"> ＜方策＞ ①調理実習において、個々の技能や課題を把握するため、実習中に個別の評価、声かけをしていく。 ②進みの早い児童には発展的な内容の課題を用意しておく。さらに“できた”を実感できるようにする。 ③児童同士での学び合い、教え合いができるよう、ペアや班ごとの学習を取り入れる。掲示物も用いて意識をよりもたせる。 </td> <td style="vertical-align: top;"> ＜検証方法＞ ①調理技能を正しく身に付けることができるように、調理実習の役割分担を明確にし、評価を行う。 ②題材の終わりに、題材の振り返りシートに取り組む。発展的な課題に取り組んだ児童ができた実感する解答・記述をしているか、題材の終わりに確認をする。 ③題材ごとに授業アンケートを行い、児童の学習状況や課題を把握し、次の題材に活かす。 </td> </tr> </table>		＜方策＞ ①調理実習において、個々の技能や課題を把握するため、実習中に個別の評価、声かけをしていく。 ②進みの早い児童には発展的な内容の課題を用意しておく。さらに“できた”を実感できるようにする。 ③児童同士での学び合い、教え合いができるよう、ペアや班ごとの学習を取り入れる。掲示物も用いて意識をよりもたせる。	＜検証方法＞ ①調理技能を正しく身に付けることができるように、調理実習の役割分担を明確にし、評価を行う。 ②題材の終わりに、題材の振り返りシートに取り組む。発展的な課題に取り組んだ児童ができた実感する解答・記述をしているか、題材の終わりに確認をする。 ③題材ごとに授業アンケートを行い、児童の学習状況や課題を把握し、次の題材に活かす。
＜方策＞ ①調理実習において、個々の技能や課題を把握するため、実習中に個別の評価、声かけをしていく。 ②進みの早い児童には発展的な内容の課題を用意しておく。さらに“できた”を実感できるようにする。 ③児童同士での学び合い、教え合いができるよう、ペアや班ごとの学習を取り入れる。掲示物も用いて意識をよりもたせる。	＜検証方法＞ ①調理技能を正しく身に付けることができるように、調理実習の役割分担を明確にし、評価を行う。 ②題材の終わりに、題材の振り返りシートに取り組む。発展的な課題に取り組んだ児童ができた実感する解答・記述をしているか、題材の終わりに確認をする。 ③題材ごとに授業アンケートを行い、児童の学習状況や課題を把握し、次の題材に活かす。		
4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】 ＜成果＞ ＜課題＞	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】		
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】			

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 体育科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題 ・する、みる、支える、知るの4つの体育の見方・考え方で運動を楽しめるように、各領域において児童が「目的意識」をもって「必要感」を感じて学習していく必要がある。特に、チームでの協力が必要なボール運動領域の技能面を高めるために、作戦を話し合っ決めてたり、動き方やボール操作についてアドバイスをし合ったりして学習活動できるような手だてが必要である。							
2. 課題改善に向けた取組状況 (1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容 ・ICT機器を活用し、参考になる映像と自分の動きを比較することで違いを具体的に見つけられるようにする。 ・学習カードを用いて、自分の課題から次の学習のめあてを設定させるようにする。技の習得をしたり勝利したりするために効率的な方法を思考する過程を通じ、『わかる』ことの重要性を振り返り、実感させる。 (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等 ・どの単元でもペアやトリオ、チームなどの複数人で取り組む学習形態にする。 ・ICT機器を活用して動きを撮影し、技能面でアドバイスをし合えるようにする。							
3. 課題の改善に向けた方策と検証方法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>＜方策＞</th><th>＜検証方法＞</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①チームでの学習活動を行う時間を設け、互いに「する」「見る」「支える」中で技能や思考を高められるようにする。</td><td>❶ ふりかえりにチームでの学習によって得た成果を児童が記入できるようにする。そのふりかえりに技能のポイント等の記載があるか検討する、また、ホワイトボードを用いて、作戦などの思考の形跡を確認し、検証する。</td></tr> <tr> <td>②ICT機器で手本の動画を見たり、自分の動きを撮影してアドバイスし合ったりすることで技能を高められるようにする。</td><td>❷単元学習の始めと終わりでの児童の動きを評価し、技能面の成長が見られるか検証する。</td></tr> </tbody> </table>		＜方策＞	＜検証方法＞	①チームでの学習活動を行う時間を設け、互いに「する」「見る」「支える」中で技能や思考を高められるようにする。	❶ ふりかえりにチームでの学習によって得た成果を児童が記入できるようにする。そのふりかえりに技能のポイント等の記載があるか検討する、また、ホワイトボードを用いて、作戦などの思考の形跡を確認し、検証する。	②ICT機器で手本の動画を見たり、自分の動きを撮影してアドバイスし合ったりすることで技能を高められるようにする。	❷単元学習の始めと終わりでの児童の動きを評価し、技能面の成長が見られるか検証する。
＜方策＞	＜検証方法＞						
①チームでの学習活動を行う時間を設け、互いに「する」「見る」「支える」中で技能や思考を高められるようにする。	❶ ふりかえりにチームでの学習によって得た成果を児童が記入できるようにする。そのふりかえりに技能のポイント等の記載があるか検討する、また、ホワイトボードを用いて、作戦などの思考の形跡を確認し、検証する。						
②ICT機器で手本の動画を見たり、自分の動きを撮影してアドバイスし合ったりすることで技能を高められるようにする。	❷単元学習の始めと終わりでの児童の動きを評価し、技能面の成長が見られるか検証する。						
4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】 ＜成果＞ ＜課題＞	5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】						
6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】							

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 外国語科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

児童によって学習意欲に差が出てきている。外国語を学ぶことに消極的な児童が少数いる。また全体的に、外国語を学び活用することへの意欲が低いと共に、他言語を話すことの自信のなさからすすんで話すことが難しい。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

前年度 4 年生のため記載なし。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・ICT を活用した映像教材によるリスニングや ALT の活用場面の設定を多くし、外国語の音に親しみ、慣れるようにする。
- ・ALT の支援を受けて外国の文化を取り入れたアクティビティを実施することで、外国語の学習への意欲関心を高める。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①外国語を用いることに不安を感じている児童が多いため、ICTを活用した視覚的な教材を用いることで、安心して外国語を話せる環境を整える。
- ②ALT や担任、またはクラスメイトと外国語を用いてコミュニケーションを取る場面を多く設定することで、外国語に親しみ、外国語を用いて関わることへの意欲を向上する。

＜検証方法＞

- ①視覚的にも会話表現や単語等を確認できるように教材を用いて、ロールプレイや発声練習を行うことで意欲的に取り組む児童を10%引き上げる。
- ②外国語を使うことへの意識アンケート、例えば「友達と外国語でコミュニケーションを取ることは楽しい」等、を実施して、児童の意欲関心の変容の様子を測る。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

<成果>

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

【別紙 2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 道徳科〉

1. 「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・教材文の内容や登場人物に共感し、自分事として価値項目について考えること。
- ・対話的な活動の中で、価値項目について考えを深めていくこと。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・身近な場面から気持ちや行動の意図を考えさせ、イメージしやすくする。
- ・思考を整理するために、ワークシートを活用する。

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・導入場面でも価値項目について自分の考えを出し、まとめの段階でも自分の考えを出す双括的な学習の流れで授業を行う。
- ・グループでホワイトボードや ICT 機器を用いて、話し合い考え合ったことを整理する時間を設定する。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①価値項目や導入場面の問いに対して、初めに考えをもたせたうえで、教材文や友達の意見に触れた上で改めて自分の考えをもつ学習の流れで授業展開する。

- ②毎回の授業の中で対話的に価値項目について考える場面を設け、その内容をホワイトボードや ICT 機器に整理できるようにする。

<検証方法>

- ①はじめの意見とまとめの段階の意見の変容や理由の内容を見取り、検証する。

- ② 話し合いの様子を観察し、ホワイトボードや ICT 機器に記載されている内容が、価値項目に正対していた考えが深まったかを検証する。

4. 検証結果（成果と課題）（年度末に記入する）

<成果>

＜課題＞

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項【年度末に記入する】

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿【年度末に記入する】

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和7年度第6学年 総合的な学習の時間〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

- ・6年生の総合的な学習の時間では、「アホウドリ」「タコノ葉細工」「世界遺産」と小笠原の地域や伝統に根差した学習を行う。それぞれの課題を自分ごとと捉え、自然や伝統、文化をより良く継承していくために課題と向き合う。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和5年度授業改善推進プラン記載内容

- ・外部講師の講義から課題を見つけ出して、インターネットや本などで調べ探究的な学習を展開する。
- ・学習の振り返りや進捗状況を授業の終わりに全体で共有する。

(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・問題解決型学習として課題を児童に考えさせて取り組ませることで自主的に課題に取り組む姿勢を養う。
- ・外部講師による体験型の学習を交えることで小笠原の伝統や文化、自然をより身近に感じる体験を経験させる。
- ・発表で学んだ情報を整理し、外部へ発信する経験を通じて小笠原への知識を深める。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①導入部分で学習のめあてを明確にし、前半で体験的学習、後半で課題を整理して解決に向けて取り組みさせる。
- ②外部講師を招き、話を聞いたり、伝統工芸をつくる体験をすることで、さらに学習意欲が増すようにする。

＜検証方法＞

- ①一番初めの学習計画を立てる段階で、まとめ方をどのようにしたらよいか全体で交流するときの発言で検証する。
- ②ワークシートの記入状況や発言の様子などで検証する。

4. 検証結果(成果と課題) 【年度末に記入する】

＜成果＞

・

＜課題＞

・

5. 令和8年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項 【年度末に記入する】

・

6. 令和8年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿 【年度末に記入する】